

年報

No. 27



平成 8 年度
佐賀県立博物館
佐賀県立美術館

はじめに

余暇の増大等による人々のライフスタイルの多様化、高齢化による質の高い生涯学習に対する欲求の高まりなど、芸術・文化に対する県民の関心は、これまで以上に更に顕著になってきており、地域の拠点文化施設として、また、魅力ある博物館として、その果たす役割も年々重要になっています。

博物館建設ブームは、現在も続いており、21世紀初頭には全国で7000館を超すのでは、と云われ、まさに「百花競乱」の時代になっています。しかも、その7割が国公立の博物館で占められている現状であります。そして、これら多くの博物館は、入館者ののびなやみや調査研究体制、予算、施設、周辺環境対策等で様々な悩みを抱えているといわれています。

当博物館・美術館も例外ではなく、ソフト面やハード面でいろいろな課題を抱えていますが、現在、それらを克服するため館職員一同努力しているところです。

ここに、平成8年度事業報告の概要を刊行しました。関係各位の忌憚のないご意見などをいただければ、幸いに存じます。

なお、平成8年度も多くの方々から、貴重な展示資料を寄贈・寄託していただき、誠にありがとうございました。これからも博物館・美術館の運営につきまして、今まで以上のご支援を賜りますよう心からお願いします。

平成9年7月1日

佐賀県立博物館 館長 山田 陸三
佐賀県立美術館

目 次

佐賀県立博物館および美術館日誌	4
同組織／職員名簿／人事異動	5
同協議会	6

佐賀県立博物館

沿革	7
規模および施設／歳出予算	8
事業の実施状況	
1. 常設展	9
2. 資料調査	17
3. 普及活動	18
4. 観覧状況	20
資料の概要	
1. 購入資料	22
2. 寄贈資料	22
3. 寄託資料	23
4. 資料貸出状況	23
5. 購入図書	23
茶室「清恵庵」の管理と運営の概要	24

佐賀県立美術館

沿革	25
規模および施設／歳出予算	26
事業の実施状況	
1. 常設展	27
2. 所蔵品巡回展	30
3. 企画展	31
4. 資料調査	32
5. 普及活動	33
6. 観覧状況	34
7. ホール・画廊・研修室利用状況	42
資料の概要	
1. 新収蔵（購入・寄贈）資料	43
2. 寄託資料	49
3. 資料貸出状況	49
4. 購入図書	49
博物館・美術館職員名簿／人事異動	50

佐賀県立博物館および佐賀県立美術館日誌

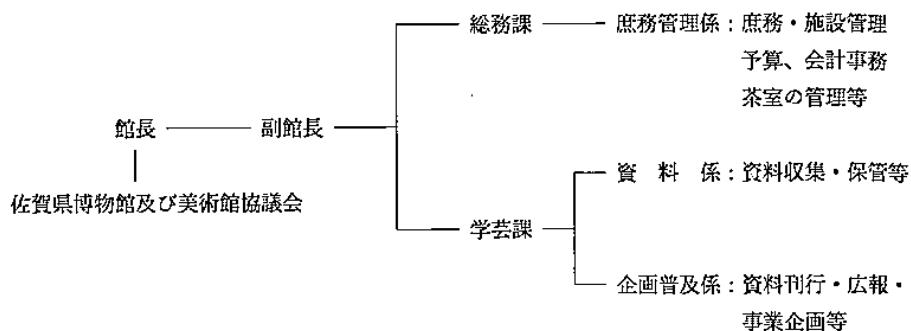
平成8年

- 4月1日 職員人事異動（5ページ参照）
4月26日 平成8年度博物館第1期常設展（～5月19日）
5月5日 常設展無料開放（こどもの日）入館者数：博物館714人
5月23日 平成8年度博物館第2期常設展（～6月23日）
6月29日 平成8年度美術館第1期常設展（～7月28日）
7月2日 博物館実習開講式（実習生8名）
7月12日 平成8年度博物館第3期常設展（～10月13日）
7月15日 美術館実技講座デッサン教室開講（～7月19日）、受講者30名、講師 深川直人氏
7月24日 宮内庁東宮職内舎人阿部茂治氏、女婿今井宏子氏、殿部南岳院隆彦氏来館
8月3日～4日 親と子の映画会。入場者：898名
～ 平成8年度美術館第2期常設展（～9月16日）
8月9日 佐賀県教育庁同和問題研修会
9月27日 國際陶芸アカデミー（I A C）会員展（～10月13日）
10月26日 第46回佐賀県美術展（～11月4日）
11月6日 平成8年度博物館第4期常設展（～12月27日）
11月21日 九州北部三県文化交流展－異国文化の導入－「長崎・横浜・東京－風物誌」（～12月8日）
12月12日 平成8年度美術館第3期常設展（～12月23日）
12月28日 執務納め式

平成9年

- 1月2日 平成8年度博物館第5期常設展（～8月3日）
1月2日～3日 常設展正月無料開放。入館者：256名
1月6日 職員人事異動（1月1日付 5ページ参照）
1月15日 常設展無料開放。（成人の日）入館者：110名
1月25日 美術館企画展「佐賀の信仰と美術展」（～3月2日）開場式
2月14日 美術館屋根防水改修工事（～3月28日）
2月22日 美術館企画展記念講演会「仏像の美」（講師 西村公朝氏）
3月15日 ジャパンエキスポ「世界・焱の博覧会」シンポジウム（東京大学名誉教授 木村尚三郎氏）
3月23日 博物館・美術館講座「考古学の年代はどうやってきめられるか。」（講師 西南学院大学文学部教授 高倉洋彰氏）

組 織



博物館・美術館職員名簿（平成8年4月1日現在）

課名	職名	氏名	課名	職名	氏名
総務課 （庶務管理係長事務取扱）	館長	深川 弘一	学芸課 （資料係長（学芸員）、企画普及係長（学芸員））	学芸課長	中牟田 賢治
	副館長	森 醇一郎		資料係長（学芸員）	蒲原 宏行
	専門員	大國 進		主査（学芸員）	山崎 和文
	主査	一丸 正美		主事	中原 正登
	主査	古賀 タミ子		主事	野中 耕介
	主査	園田 正伸		非常勤嘱託	今川 泰靖
	主事	石橋 邦広		企画普及係長（学芸員）	松本 誠一
	技術員	近藤 誠徃		主査（学芸員）	宇治 章
	事務員	小石 武彦		主事（学芸員）	本多 美穂
				主事（学芸員）	竹下 正博
計 19名					

人事異動（平成8年4月1日付）

転 入			転 出		
主査	園田 正伸	中部農林事務所より	主査	小林 静枝	退職
主事（学芸員）	本多 美穂	名護屋城博物館より	主査	川副 義敦	神埼清明高等学校へ
主事	野中 耕介	芦刈中学校より	主査	福井 尚寿	文化財課へ

(平成9年1月1日付)

庶務管理係長	毛利 明彦	世界・焱の博覧会より	
--------	-------	------------	--

佐賀県博物館及び美術館協議会

委員名簿(定数 14名)

(平成9年3月31日現在)

区分	氏名	役職名	住所
学校教育 関係者	松本正光	県立佐賀東高等学校長	〒840 佐賀市兵庫町大字渕2194
	藤原徹也	県小中学校校長会理事	〒840 佐賀市兵庫町大字渕228-12
	西村健彦	県理科教育振興会理事長	〒840 佐賀市本庄町大字末次636-10
社会教育 関係者	徳丸正俊	県公民館連合会副会長	〒840-22 佐賀郡東与賀町大字下古賀1478-2
	松本シゲノ	県地域婦人連絡協議会会长	〒840 佐賀市嘉瀬元町2078
学 識 経 験 者	大塚巖	県文化団体協議会会长	〒840 佐賀市本庄町大字本庄1137-23
	宮尾正隆	佐賀美術協会理事長	〒840 佐賀市末広町1-11-20
	留守茂幸	佐賀県議会議員	〒840-02 佐賀郡大和町大字東山田3780
	中村質	九州大学文学部教授	〒813 福岡市東区美和台7-17-8
	深川善次	佐賀美術協会理事	〒840-22 佐賀郡川副町大字南里557-3
	米倉利昭	長崎純心大学人文学部教授	〒840 佐賀市赤松町7-17-302
	佐田茂	佐賀大学教育学部教授	〒815 福岡市南区高宮2-9-27-303
	志佐輝彦	厳木町教育委員会教育長	〒849-31 東松浦郡厳木町篠木236-1
	吉野徳親	佐賀新聞社編集局長	〒840 佐賀市大財4-4-3

(※任期: 平成8年7月25日~平成10年7月24日)

開催状況

(第1回)

・平成8年8月22日(木)、於: 県立博物館 応接室

議題 (1) 平成8年度予算について

(2) 平成8年度の重点事業について

(3) 平成7年度の新収蔵(購入・寄贈)資料及び平成8年度の収蔵予定資料について

(4) 博物館、美術館の入館者について

(5) その他

(第2回)

・平成9年2月21日(金) 於: 県立博物館 応接室

議題 (1) 平成8年度主要事業の報告

(2) 平成9年度予算(案)について

(3) 平成9年度重点事業(案)について

(4) 平成8年度博物館、美術館入館者等について

(5) その他

平成 8 年度

佐賀県立博物館

博物館の沿革

- 昭和26年4月1日 佐賀県文化館設置条例制定、佐賀県文化館が設置される。
- 昭和35年4月1日 佐賀県文化館設置条例を博物館登録のため改正。博物館報第10条に基づき佐賀県文化館を博物館として登録する。
- 昭和36年、新博物館建設の気運が高まり、41年度調査費計上。
- 明治百年記念事業として県立博物館を建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和43年度に設計を委託し建設設計画に着手し、昭和43年度から昭和45年度にわたる継続事業として建設することとなる。
- 昭和44年1月21日 佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
- 昭和45年3月31日 佐賀県文化館設置条例廃止。
- 昭和45年4月1日 佐賀県博物館設置条例公布。佐賀県立博物館協議会条例公布。佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館完工。佐賀県立博物館設置条例施行。博物館開設準備事務局廃止。
- 佐賀県立博物館協議会条例施行。
- 昭和45年10月14日 佐賀県立博物館開館記念式典挙行。
- 昭和48年10月10日 茶室「清恵庵」を、市村清氏のご遺志により市村幸恵婦人から寄贈を受ける。
- 茶室落成式。
- 昭和50年9月20日 古賀忠雄作「岬の男」(ブロンズ)前庭に据付完成。
- 昭和51年9月18日 皇太子殿下、同妃殿下「柿右衛門名品展」ご観覧のためご来館。
- 昭和51年10月22日 天皇陛下、皇后陛下「若楠国体芸術展」ご観覧のため来館。
- 昭和52年12月12日 佐賀藩鋳造鉄製「カノン砲」(復元)玄関前据付完了。
- 昭和53年5月4日 常陸宮殿下、同妃殿下常設展「佐賀県の歴史と文化展」ご観覧。
- 昭和53年11月5日 茶室「清恵庵」開室5周年記念合同茶会開催。出席者約1,500名。
- 昭和54年7月19日 入館者数100万人に達する。
- 昭和55年4月23日 古賀忠雄氏遺作(232点) 遺族より寄贈。
- 昭和56年4月17日 山口猛彦氏遺作(34点) 遺族より寄贈。
- 昭和57年5月10日 鍋島則子氏より工芸品(85点) 寄贈。
- 昭和61年3月17日 佐賀植物友の会(須吉将宏会長)から植物腊(さくようーおしば)18,000点寄贈。
- 昭和62年5月23日 天皇陛下、「森林と文化展」ご観覧のためご来館。
- 昭和63年4月15日 入館者総数200万人に達する。
- 平成2年3月31日 過去最高の入館者数189,000名を記録(平成元年度の入館者数)。
- 平成2年10月6日 佐賀県立博物館開館20周年記念「佐賀の名宝ーいろいろたちー」展を開催。
- 平成4年3月30日 佐賀県立博物館及び佐賀県立美術館の使用料に関する条例の一部改正。
(高校生以下及び心身障害者等の無料化)(施行4.4.1)。
- 平成4年8月6日 第1回県内社寺調査委員会(以後、4年計画の調査に入る)。
- 平成4年8月11日 紀宮清子内親王殿下、御視察。
- 平成6年5月9日 佐賀県博物館協会設立。
- 平成7年9月29日 佐賀県立博物館開館25周年記念「知られざるふるさとの自然史一大集合／佐賀平野と有明海の生ものたちー」展開催。
- 平成7年10月12日 入館者総数300万人に達する。
- 平成7年12月20日 来館者用エレベーター設置。

規模及び施設

本 館

構 造 鉄筋コンクリート造
規 模 敷地面積 30,926.0 m²
建築面積 1,076.2 m²
延床面積 4,718.4 m²

施 設

ロビー(案内所・常設展受付)	388.5 m ²
1号展示室	218.8 m ²
2号展示室	375.4 m ²
3号展示室	484.0 m ²
大展示室	523.5 m ²
中展示室	136.0 m ²
収蔵庫並整理室	524.0 m ²
研究室	66.0 m ²
館長室・応接室	72.0 m ²
総務課	68.0 m ²
学芸課	64.0 m ²
茶道具庫	24.0 m ²
車 庫	56.0 m ²
荷解場	86.0 m ²
電気室	48.0 m ²
ボイラー室(制御室含む)	181.0 m ²
その他	1,403.2 m ²

茶 室

構 造 木造平屋建
規 模 床面積 57.35 m²

駐 輪 場

構 造 軽量鉄骨平屋建

44.1 m²

歳出予算

科 目	予算額(単位千円)	科 目	予算額(単位千円)
(博物館費)		5. 常 設 展 費	2,168
1. 博物館運営費	45,258	常 設 展 示 費	2,168
管 理 運 営 費	43,488	6. 普 及 活 動 費	36
会議及び研修費	818	研 究 講 座 費	36
博物館協議会費	424	7. 資 料 刊 行 費	445
非常勤嘱託報酬	528	8. 茶 室 管 理 費	144
2. 資料整備費	14,096	9. 施 設 整 備 費	9,099
資 料 購 入 費	8,000		
資 料 整 備 費	6,096		
3. 調査研究費	718		
研 究 費	126		
調 査 費	592		
4. 企 画 展 費	2,361		
企 画 展 開 催 費	2,361	計	74,325

事業の実施状況

1. 常 設 展

会 場 博物館1号・2号・3号・大展示室
 内 容 『佐賀県の歴史と文化』
 自然史・考古・歴史・美術・工芸・民俗
 の各分野の資料を網羅した通史展示。

◇展示項目（主な展示資料）

A 佐賀の自然

- 1 佐賀の大地
 - ①佐賀の地質のなりたち
球状閃緑岩、花崗岩、斑れい岩 ほか
 - ②化石は語る
ヨコヤマオウムガイ、サメの歯 ほか
- 2 佐賀の生き物
 - ①佐賀の植物
カネコシダ、クロカミラン ほか
 - ②佐賀の昆虫
ルリクワガタ、フジミドリシジミ ほか
 - ③有明海の生き物
ムツゴロウ、ワラスボ、エツ ほか

B 文明のおこりと佐賀

- 1 狩りと採集の日々
 - ①石器を作った人々
ナウマン象化石、黒曜石原石 ほか
 - ②縄文土器の世界
甕、鉢、鯨骨压痕土器底部 ほか
 - ③縄文人の生活誌
磨製石斧、打製石鎌、アラカン ほか
- 2 稲と銅と鉄と
 - ①水田稻作と支石墓
炭化米、石包丁、豎杵、臼 ほか
 - ②弥生のくらし
玉杓子、釣針、ジョッキ形土器 ほか
 - ③ムラからクニへ
有柄細形銅劍、方格規矩四神鏡 ほか
 - ④マツリと装い
鳥形木製品、ゴホウラ製貝輪 ほか

C 古代国家への歩み

- 1 古墳と豪族
 - ①古墳の形成と分布
高杯、四獸鏡、短甲 ほか
 - ②豪族の支配と人々のくらし
鉄劍、石剣、碧玉製紡錘車、金銅製飾金具 ほか
- 2 肥前国の成立

①国府と城

肥前國関係荷札木簡、文房具一式、石帶 ほか

②仏教の広がり

軒丸・軒平瓦 ほか

③風土記と万葉

丸瓦、平瓦、墨書き土器、綠釉陶器碗 ほか

D 肥前国と武士団

1 荘園の時代

①肥前国と莊園

深江家文書、木製鞍、青銅製箸 ほか

②山岳仏教と末法思想

経筒、瓦経、阿弥陀如来像 ほか

2 武士の時代

①鎌倉幕府と肥前国

②蒙古襲来

蒙古襲来絵詞(複製)、八幡愚童訓 ほか

③南北朝・室町期の九州

④海の武士団松浦党と倭寇

倭寇図巻(複製) ほか

3 いのりとくらし

①中世のくらし

和鏡、銅錢、青磁碗、土鍋 ほか

②信仰と文化

菩薩形坐像、法華經、円鑑禪師像 ほか

4 中世から近世へ

①龍造寺隆信とその時代

水ヶ江城古図、龍造寺隆信感状 ほか

②朝鮮出兵と肥前名護屋城

肥前名護屋城図屏風、名護屋城瓦 ほか

E 佐賀藩と近世社会

1 德川幕府と佐賀藩

①諸藩の成立

鍋島勝茂書状、千代田の御表

②ア、長崎警備と佐賀藩

正保四年長崎警備図 ほか

イ、島原の乱と佐賀藩

ウ、葉隠の成立

葉隠聞書

2 くらしと交易

①長崎貿易と肥前陶磁

色絵花蝶文輪花鉢、色絵婦人像 ほか

②武家のかたち

刀、濤・日輪文打出五枚胴具足 ほか

3 教育と文化

①藩校と私塾

②近世の文化

古賀精里文集、鍋島更紗秘伝書 ほか

4 幕末・維新の激動

- ①異国船の渡来と開国
オランダ使節第一見口上 ほか
- ② ア、近代科学技術の導入－火術方と精煉方－
イ、長崎海軍伝習所と佐賀藩
ウ、1867年パリ万国博と佐賀藩
　　パリ万国博カタログ類 ほか
エ、佐賀藩の洋学研究－好生館と致遠館－

F 近代の佐賀

1 国家と地方

- ①廃藩から佐賀県再置まで
九州一覧図、地券 ほか
- ② ア、明治の群像－政治・産業・教育－
　　米欧回覧実記 ほか
イ、明治の群像－芸術－
　　西洋婦人像（岡田三郎助） ほか
- ③近代化と人々のくらし
　　蓄音機、ラジオ、扇風機、ミシン ほか

2 佐賀－過去・現在－

- ①かわりゆく佐賀
- ②明日に向けて

G 佐賀の民俗

1 すまいとくらし

- ①佐賀の民家
　　クド造民家模型、ジョウゴ造民家模型
- ②くらしの道具
　　車長持、遠州行灯、鏡台、針箱 ほか

2 有明海と玄界

- ①有明海と漁撈
　　有明海漁撈用具、北前型弁才船 ほか
- ②玄界のくじらとり
　　玄界捕鯨用具一式、鯨船（模型） ほか

3 佐賀の農業

- ①佐賀平野の成り立ちと農具
　　水田犁、俵締木、四季耕作図絵馬 ほか
- ②農と祭り

4 仕事と道具

- ①山のくらし
　　木挽き鋸、根切り鋸、木馬 ほか
- ②手漉き和紙
　　蒸し桶、漉き舟、干し板、楮 ほか
- ③大甕づくり
　　大甕づくり用具一式、大甕 ほか
- ④肥前の製糞
　　サギリ、薬研、百味簞笥、矢立 ほか

* 佐賀県民俗地図（国・県指定重要民俗文化財）

◇テーマ展示（博物館3号展示室）

「肥前国産物図考の世界」

平成8年7月12日（金）～8月11日（日）

「肥前国産物図考」（佐賀県重要文化財）は、いまから200年ほど前に唐津藩士の木崎盛標が唐津藩領内の特産物や産業をさし絵入りで解説した書物である。玄界灘でのダイナミックな鯨とりやイルカ漁、馬渡島での馬の放牧や鹿狩り・獣狩り、唐津焼の製造工程や紙漉き、城下の唐人町での布晒しなど、当時の暮らしや産業のようすがビジュアルに、鮮やかな色彩で描かれている。

* 7/12(金)～7/28(日)

第2帖・3帖・4帖・6帖——捕鯨・狩獵関係を中心

に展示。

* 7/30(火)～8/11(日)

第1帖・5帖・7帖・8帖——やきもの・紙漉きなど

生産関係を中心

に展示。

「佐賀藩主 鍋島綱茂の書画」

平成8年8月13日（火）～9月15日（日）

佐賀藩三代藩主である鍋島綱茂（1653～1706）は、父光茂の政策を継いで身分秩序の確立、文治主義策の強化に努めた。1691（元禄4）年には佐賀城南西部に“鬼丸聖堂”を建設するなど、佐賀藩史上において重要な役割を担った。

また綱茂は篤学者で、芸術を好み、詩歌書画に優れた手腕を發揮した。中でも、絵画作品の完成度の高さには目を見張るものがある。

今回の展示では、鍋島綱茂の詩歌、和歌、そして絵画など12点を展示し、綱茂の優れた技量と豊かな感性について紹介した。

* 出品目録

鍋島綱茂像	1幅	高伝寺蔵
書額「孤不徳」（鍋島綱茂書）	1面	館蔵
鍋島綱茂書	1幅	館蔵
「山海云々」十一行書	1幅	鍋島報效会／寄託
三十六歌仙図	1帖	鍋島報效会／寄託
詩歌懐紙二枚張合	2枚	鍋島報效会／寄託
八仙人之図	1幅	鍋島報效会／寄託
毘沙門天像	1幅	鍋島報效会／寄託
鍾馗・獅子図	3幅	館蔵

「昆虫の擬態」

平成8年9月18日（水）～10月13日（日）

厳しい自然界の中でより確実に生き残るために、擬態と呼ばれるデザインを自分の体に施した昆虫をテーマに、いるのにいないように見せかける「カムフラージュ」、有毒な昆虫が色で警告する「警戒色」、姿だけ有毒昆虫

に似せる「模倣擬態」、天敵の攻撃をそらす「そらし紋」などの実例を、標本展示を通して解説した。

*出品目録

コノハムシの仲間（マレーシア他）
エダナナフシ（佐賀県）
アケビコノハ（佐賀県）
ハイイロキシタヤガ（佐賀県）
カギバトモエ（佐賀県）
クロコノマチョウ（佐賀県）
ドクチョウの仲間（中南米）
ベニスカシジャノメ（コロンビア）
キイロスカシジャノメ（ペルー）
ウスベニスカシジャノメ（ブラジル）
ベニモンスカシジャノメ（ペルー）
ユカタンビワハゴロモ（ブラジル）
メスアカムラサキ（佐賀県）
ツマムラサキマダラ（マレーシア）
マルバネルリマダラ（マレーシア）
シロモンルリマダラ（インドネシア）
ムラサキマネシアゲハ（紫色型 マレーシア）
ムラサキマネシアゲハ（白紋型 マレーシア）
イスミアキオビマダラ（ブラジル）
トラフマダラ（コロンビア）
カバスジシジミタテハ（ペルー）
カバイロシロチョウ（ブラジル）
ツマキフクロウ（ブラジル）
アオネフクロウ（コロンビア）
キオビフクロウ（コロンビア）
他 合計184個体

「佐賀名産 朱漆塗櫃」

平成8年11月6日(水)～12月1日(日)

昭和初期から昭和40年代にかけて、家庭用品の中で最も愛されたもの一つに『高岸の漆塗佐賀飯櫃』と呼ばれるものがあった。高岸初一商店（佐賀市寺町）の「高岸」をとってこう名付けられた朱漆塗りの飯櫃は、佐賀県内はもとより、九州一円、京阪神地方や北海道、満州（中国東北地方の旧通称）地方にまでその販路を広げていた。

昭和10年に佐賀市観光協会の設立を記念して開催された『佐賀県下名産品人気投票』（佐賀毎夕新聞主催）では、家庭用品の部で見事1位、当時の新聞は、初一氏を「全国における唯一の漆塗櫃の製造家」と報じ、「佐賀市の代表的な新興産業…。洋々たるその前途…。」と評している。

今から60年前前、柳宗悦を主導者として『民芸運動』が起こる。「日常雑器にこそ究極の工芸美がある」とい

う思想であった。その主導者が昭和18年に著した『手仕事日本』の中に、この『高岸の漆塗佐賀飯櫃』が紹介されている。

完成品

朱漆塗り飯櫃

製作工程品

キワリガタ（木割り型）

カケジャク（掛け尺）

*側板の整形

ソトゼン（外銑）

ウチゼン（内銑）

ハラウケ（腹受け）

ハラアテ（腹当て）

ショウジキダイ（正直台）

ヒラゼン（平銑）

コグチガンナ（木口鉋）

*側板の組立て

カリワ（仮輪）

ウチギリ（打ち錐）

*桶の内面の整形

ウチマルガンナ（内丸鉋）

マエガンナ（マエ鉋）

ソリノウチマルガンナ（反りの内丸鉋）

ソコグリガンナ（底ぐり鉋）

バリ（*新考案の道具）

クイコミガンナ（食込み鉋）

*桶の外面の整形

ソトマルガンナ（外丸鉋）

マエガンナ（マエ鉋）

コグチマルガンナ（木口丸鉋）

*輪（タガ）入れ

テビキ（手挽き）

シメキ（メ器）

*底つくり・底入れ

ブンマワシ（ブンまわし）

ソコマワシノコ（底まわし鋸）

ソコマワシガンナ（底まわし鉋）

ソコサゲドウグ（底下げ道具）

*蓋つくり

アイザショウミゾカンナ（合差し用溝鉋） *新考案の道具

アイザショウサンミゾカンナ（合差し用棧溝鉋）

シャクリ

ソトマルガンナ（外丸鉋）

ヒラガンナ（平鉋）

*漆塗り

ジョウバン（常盤）

ヘラ（笠）
ハケ（刷毛）
木炭
ウルシエキシボリダイ（漆液絞り台）

「武家の装い—鹿島鍋島家の漆器—」

平成8年12月3日(火)～12月27日(金)

鹿島藩・鍋島家に伝わった漆器の数々を展示した。江戸時代の生活用具の多くは漆器であった。特に大名などの上級階級のくらしの中では、豪華な蒔絵を施した漆器が数多く使用された。

日々の暮らしの中で食事の道具も漆器が中心で、江戸中期頃から陶磁器の皿や碗などがさかんに使用されるようになるが、それでも膳や飯櫃、湯桶など多くの漆器が使われた。

また、女性の暮らしの中では、化粧の道具が重要な位置をしめていた。整髪用具、紅用具、白粉用具、お歯黒用具などで、そのための角盤やはぞう、桶盤、樹台、鏡掛けなど多く漆器で作られた。蒔絵を施した高級なものも多く、これらの漆器の多くは婚礼用具の一部であり、実際の用のみならず、社会的地位を表すものでもあった。

さらに、かるたや貿合せなどの娯楽は人々の楽しみであり、また教養のためのたしなみでもあった。香も実用性だけでなく、種類・名称を当てる一種のゲームのような使い方もされた。そのためにこれらの道具は装饰性の高い意匠が多く施された。そして煙草盆、硯箱なども嗜好品としての意味合いが強く、手の込んだ細工や豪華な蒔絵がなされたものが作られた。

今回の展示では江戸時代の生活の諸相を生活用具の主であった漆器を中心に紹介した。

*日々のくらしー食の道具ー

松竹梅蒔絵懸盤 江戸時代後期

松竹梅蒔絵膳
松竹梅蒔絵膳
松竹梅蒔絵膳
松竹梅蒔絵湯桶
松竹梅蒔絵盆台
蔓草翫葉紋蒔絵飯櫃
蔓草蒔絵天目台
黒漆塗盆洗
宝篆文蒔絵将棋盤形弁当箱

*くらしの彩りー化粧の道具ー

松竹梅鶴亀図柄鏡（松村因幡據藤原重義作）

江戸時代後期

蔓草翫葉紋蒔絵鏡箱
蔓草翫葉紋蒔絵鏡掛
蔓草翫葉紋蒔絵角盤

蔓草翫葉紋蒔絵はぞう
蔓草翫葉紋蒔絵箱（髪文字入）
松竹梅翫葉紋蒔絵桶盤
松竹梅翫葉紋蒔絵湯桶
梨地蔓牡丹蒔絵樹台
松文蒔絵椀
染付有職鳳凰文嗽碗（高台内染付銘）
鼻紙台
*楽しみとたしなみー娯楽・香・煙草などー
翫葉紋散蒔絵箱入 歌加留多 江戸後期
唐草翫葉紋蒔絵貝桶
梨地翫葉紋散蒔絵香箱
香割道具
盤香道具
草花蒔絵煙草盆
花鳥高蒔絵硯箱

「旅の楽しみー広重が描いた東海道ー」

平成9年1月2日(木)～2月2日(日)

江戸時代の中期になり生活にゆとりが生まれると、庶民のお伊勢まいりや上方旅行が盛んに行われるようになった。1705年の伊勢神宮への参拝客は年間300万人を超えたといわれる。伊勢に限らず長野の善光寺や四国の金比羅神社など古い神社や仏閣、地方の靈場をめぐる巡礼の旅も数多くあった。これら庶民の旅の多くは信仰に根ざしたものであったが、旅人たちは目的地までの往来で街道沿いの名所旧跡を訪ね、新しい知識や技術を得、見聞を広めた。

旅の流行は浮世絵の世界にも影響を与え、江戸名所絵や道中絵などの風景画が描かれるようになった。それは歌川豈広に始まり、葛飾北斎・歌川広重において頂点に達した。

歌川（安藤）広重は1832年に幕府の御馬献上の一時に従って京都に旅し、そのときの道中の写生をもとにして浮世絵版画『東海道五拾三次』（保永堂版）を出版した。これは北斎の名作『富嶽三十六景』を凌ぐ人気となり、これ以後広重は38種の東海道ものを次々と刊行した。今回展示する『五十三次名所図会』は、広重の東海道シリーズのなかでも晩年の作になるものである。全点タテの構図で描かれているため「豎絵東海道」とも呼ばれ、東海道の53の宿場に江戸日本橋と京都三条大橋を加えた、55枚からなる作品である。

今回の展示では、広重の『五十三次名所図会』を中心に、各地の名所絵や地図類、旅の道具などを紹介した。

出品点数 約50点

*名所絵

五十三次名所図会（安政2年版 歌川広重筆）

東海道名所一覧之図（歌川貞秀筆）

江之島七里ヶ浜図（昇亭北寿筆）

江戸名所吉原夜桜図（歌川広重筆）

東都江戸橋図（歌川広重筆）

江戸名脇道化尽（広景筆）

日本山海名勝画譜（長谷川雪旦筆）

隅田川遠望図（長谷川雪旦筆）

淀川曳船図（長谷川雪旦筆）

*旅の道具

小物入れ

矢立

印籠

弁当箱

箱枕

草鞋と足半

脚綱

笠

大日本国順路明細記大成（弘化3年発行 甘泉堂和泉屋市兵衛版）

道中独案内図（寛政4年版行御免 京都菊屋喜兵衛版）

「百武・久米・岡田三人展」

平成9年2月4日(火)～3月2日(日)

百武兼行、久米桂一郎、岡田三郎助はいづれも本県の出身であり、日本近代洋画史上大きな足跡を残している。三人とも佐賀藩士の家に生れ、はじめは画家以外の職業に就くことを求められていた。

しかし、明治といふいわば西欧からの技術習得の時代にあって、かれらは西欧の絵画技術を、実学のひとつとして勉学し、修業することに自らの道を定めたのである。

百武は、十代藩主鍋島直正の長子直大の御相手役として、終生側近として仕え、専門画家としての絵画制作活動を行うことはできなかったが、短期間のうちに西欧の伝統的な絵画技法を身につけた。

久米、岡田は相前後してフランスに学び、帰国後は白馬会の創設、東京美術学校教授への就任、文展（文部省美術展覧会）の審査員など日本美術界のアカデミズムの形成において大きな役割を果した。

今回の展示は、当館が収集の柱にしているこの三人の画家たちの作品を、寄託作品を含めて紹介するものである。

*出品目録（特に記載のない作品は館蔵）

百武兼行（1842～1884）

馬車のいる風景 1877（明治10）頃

耕作 1878（明治11）頃

マンドリンを持つ少女 1879（明治12） 寄託品

タンバリンを持つ少女 1881（明治14）頃 寄託品

久米桂一郎（1866～1934）

泊船 1891（明治24）

京都加茂川の景 1893（明治26）

岡田三郎助（1869～1939）

矢調べ 1893（明治26）

老人像 1901（明治34）

フローレンス風景 1930（昭和5）

ローマの古橋 1930（昭和5）

坐裸婦（デッサン） 1913（大正2）

裸婦（デッサン） 1936（昭和11）

婦人半身像 下絵 1936（昭和11）

「佐賀県出土の武器形祭器」

平成9年3月4日(火)～3月30日(日)

平成8年秋、島根県加茂町の山中から40個近い銅鐸が突然出土し、弥生時代の背銅器を用いたマツリが再び大きな注目を集めました。私たちが暮らすこの佐賀県地方では、銅鐸よりも銅矛や銅戈といった武器の形をした青銅器が最も重要なマツリの道具であったが、その違いはどこにあるのか。彼ら弥生人は何の為に谷の奥深く大量の青銅器を埋めたのか。武器形青銅器はなお多くの謎に包まれている。本展示は北茂安町検見谷遺跡出土の銅矛をはじめその全貌を見る機会が少ない県内出土の武器形青銅器とその鉄型を一堂に集め、これらの謎に迫ろうとしたものである。

*矛形の祭器

北茂安町検見谷遺跡出土中広形銅矛 12点

三田川町目達原桜馬場遺跡出土中広形銅矛 4点

武雄市玉江遺跡出土中広形銅矛 1点

鳥栖市本行遺跡出土中広形銅矛 1点

佐賀市上高木出土広形銅矛 1点

唐津市桜馬場遺跡出土広形銅矛片 1点

北茂安町検見谷遺跡出土中広形銅矛復元品 1点

*戈形の祭器

小城町牛尾神社伝世中細形銅戈 2点

大和町尼寺一本松遺跡出土中広形銅戈 1点

三田川町吉野ヶ里遺跡出土中広形銅戈（複製） 1点

鳥栖市藤木遺跡出土中広形銅戈片 1点

*武器形祭器の生産

鳥栖市安永田遺跡出土中広形銅矛鋳型 3点

小郡市津古東台遺跡出土広形銅矛鋳型 1点

唐津市柏崎大深田遺跡出土広形銅矛鋳型 2点

鳥栖市江島出土広形銅戈鋳型 1点

計 33点

◇常設特別展（美術館2・3号展示室）

「描かれた佐賀の祭礼—先導のかたちー」

平成8年6月29日(土)～7月28日(日)

佐賀県内には、300を越える民俗芸能が伝承されていて、その多くは「浮立」と呼ばれてきた。まさに浮き立つような笛・鉦・太鼓の音色は、春の田植えと秋の収穫を告げ、四季のリズムをかたちづくってきた。

鹿島市を中心に県西南部に分布する「面浮立」、武雄市を中心に県西北部に分布する「舞浮立（踊浮立・狂言浮立）」、佐賀市郡を中心にその周辺部に分布する「天衝舞浮立」がその代表的なものであるが、太鼓浮立・鉦浮立・行列浮立・獅子舞・荒踊り・大念仏などのようにある特定の地域にのみ伝承されていたり、県内全域にほばまんべんなく伝承されているものもあり、浮立の分布は四季の彩りにもまして多彩である。

このような多くの浮立の中には、特に「露払い」の一団を持つものがある。神幸行列の獅子、鉾先に取り付けられた鼻の高い天狗面、それに面浮立の「道行き」でスリザサラを鳴らしながら歩く鬼、いずれも行列の先頭を行き、これから行くべき道を払い清める役割を持っている。

今回は、「浮立」の構成の中でも特に特徴的な先導の一団に注目し、それが描かれた祭礼絵図を中心に、先導役の仮面や衣装、道具なども展示し、佐賀県における地域的な特色や、年代による形態の変化などを紹介した。

* I 先導のかたち—獅子—

櫛田宮神幸祭絵馬（安政5年）	櫛田神社(神埼町)
新北神社祭礼之図（昭和48年）	個人
獅子頭	鳥栖市曾根崎地区
獅子つり（衣装・道具）	"
獅子頭	神埼町尾崎地区
めずり（衣装・道具）	"
めずり面	"
獅子頭	諸富町三重地区
めずり（衣装・道具）	"
獅子頭	琴路神社(鹿島市)
先払い	"

* II 先導のかたち—天狗—

与賀神社縁起図（延宝6年）	与賀神社(佐賀市)
剣 突（衣装・道具）	琴路神社(鹿島市)
剣突面	"
鼻高面（正安2年）	田島神社(呼子町)
天狗面（模造 原資料は元龜3年）	新北神社(諸富町)
天狗面	与賀神社(佐賀市)

* III 先導のかたち—鬼—

面浮立絵馬（明治時代中期）	武雄市教育委員会
---------------	----------

型絵染壁掛 神の前一面浮立一（昭和36年）	館 藏
面浮立面（古面）	鹿島市竜宿浦地区
面浮立面（模造）	館 藏
ササラ面	武雄市永松地区
スリザサラ	"
ササラ面	芦刈町下古賀地区
スリザサラ	"
ササラ面	有明町室島地区
スリザサラ	"

「鍋島閑叟の築いた佐賀」

平成8年8月3日(土)～9月16日(月)

江戸時代の終わり、第10代佐賀藩主となった鍋島直正（閑叟）は、窮乏した藩財政を建て直し、激動する時代に対応していくため、大規模な藩政改革を実施した。

なかでも大きな功績は、最新の洋学研究を奨励し、医学や化学、特に軍事科学の研究・技術開発を行ったことであった。直正が佐賀城下の築地と多布施に設けた日本初の反射炉では、戊辰戦争で使われたアームストロング砲に代表される鉄製の大砲が多く鋳造された。また、藩校弘道館を拡充し、英学校致遠館を創設するなど教育制度も改革して、大隈重信・副島種臣ら、幕末維新时期の歴史に名を残すたくさんの有能な人材を世に送り出している。

今回の展示では、幕末の佐賀にあって広く世界に目を向け、近代日本の礎となる多くの人材を育てた鍋島閑叟の事績を紹介した。

*西洋文明との出会い

鍋島直正像（明治時代）	鍋島報效会／寄託
二行書（安政3年 鍋島直正筆）	館蔵
済急封事（天保2年 古賀穀堂著）	鍋島報效会
フェートン号絵図（文化5年）	長崎市立博物館
白帆注進外国船出入注進（19世紀半 北村謙太郎）	鍋島報效会

鍋島直正和蘭船乗り込み図

(弘化元年 古川松根筆 模製)	鍋島報效会／寄託
弘道館校舎図（牧由郎作図）	鍋島報效会／寄託
日本三代実録 他	佐賀西高等学校／寄託

*近代科学技術の導入

大銛製造方図屏風（昭和2年 陣内松齡筆）	佐嘉神社蔵
築地反射炉絵図（昭和初期 陣内松齡筆）	鍋島報效会／寄託

多布施公儀石火矢鉄立所図（昭和初期 陣内松齡筆）	鍋島報效会／寄託
和蘭砲術全書卷之二（19世紀 名村元義訳）	館蔵

大砲図面・砲車図面（19世紀）	館蔵
-----------------	----

カノン砲雑型（19世紀後半 佐賀藩精煉方製造）
鍋島報效会／寄託
佐賀藩精煉方絵図（昭和2年 陣内松齡筆 複製）
鍋島報效会／寄託
精煉方銘徳利・壺（19世紀後半 精煉方使用） 館蔵
三枝管ガラス器（19世紀後半 精煉方使用）
鍋島報效会／寄託
真空ポンプ（19世紀後半 精煉方使用）
鍋島報效会／寄託
蒸気車雑型（安政2年 精煉方製造）
鍋島報效会／寄託
鍋島直正品川台場巡視之図（昭和2年 陣内松齡筆）
鍋島報效会／寄託
長崎海軍伝習所之図（昭和初期 陣内松齡筆 複製）
鍋島報效会／寄託
海防問答（嘉永2年 佐賀藩御備立方写）
鍋島報效会
佐野栄寿左衛門海防に関する意見書
(安政3年 佐野常民) 鍋島報效会
軍艦運用学資料（19世紀後半） 館蔵
スンビン号<観光丸>模型（原資料1850年製） 館蔵
三重津海軍所之図（昭和2年 陣内松齡筆 複製）
鍋島報效会／寄託
凌風丸絵図（昭和18年 秀島成忠画賛） 佐嘉神社
蒸気船雑型<スクリュー船>（安政2年 精煉方製造）
鍋島報效会／寄託
蒸気船雑型<外輪船>（安政2年 精煉方製造）
鍋島報效会／寄託

*西南雄藩への道

直正宰相辞退願（元治元年 鍋島直正） 館蔵
佐賀藩旗（19世紀後半） 個人蔵／寄託
佐賀藩兵上野彰義隊砲撃図（昭和初期 陣内松齡筆）
個人蔵／寄託
スペンサー銃（19世紀後半） 館蔵
ウェストリー・リチャード銃（19世紀後半） 館蔵
アームストロング砲（模型 原資料19世紀後半）
佐賀県教育委員会
蝦夷開拓督務勅書（明治2年） 鍋島報效会／寄託
征韓論図（明治10年 楊洲斎周延紙） 館蔵
佐賀県逆動記聞（明治10年 真匠銀光筆） 館蔵
鍋島直正一代記（昭和8年頃 北島兵一筆）
鍋島報效会／寄託
鍋島直正公御実歴毫百図（昭和8年頃 北島兵一筆）
個人蔵

◇平成7年度新収蔵品展（博物館 3号展示室）
前期：平成8年4月26日(金)～5月19日(日)

後期：平成8年5月23日(木)～6月23日(日)
平成7年度に当館が購入したり、寄贈・寄託をうけた
新収蔵の資料を一同に展示した。

今回は自然史26件、考古12件、歴史6件、絵画30件、
書・典籍10件、彫刻2件、工芸21件、写真1件。

○は前期のみ、△は後期のみ、△は全期間展示。

*自然史

トンボ化石（中生代ジュラ紀）	2点	購入
カワセミの剥製	1点	購入
トゲオトンボ類15個体	1箱	寄贈
スミノエガキの化石（新生代第四紀）	3点	寄贈
アカニシの化石（新生代第四紀）	2点	寄贈
緑柱石	1点	寄贈
有明海固有生物等樹脂封入標本	20点	

*考古

大和町本村籠遺跡出土品（弥生時代）		寄託
・多紐細文鏡	1点	
・銅鏡	1点	
・碧玉製管玉	18点	
・銅斧片	1点	
諸富町石塚1号墳出土品（古墳時代）		寄託
・金銅張劍菱形杏葉	6点	
・金銅張辻金具	9点	
・金銅張帶金具	2点	
・金銅製裝飾金具	2点	
・水晶製勾玉・管玉・切子玉	16点	
・碧玉製管玉	14点	
・ガラス製丸玉・小玉	11点	
大和町築山瓦経塚出土瓦経（平安時代）	40点	寄託

*歴史

鶴田家文書（戦国～江戸時代）	3巻	寄託
鶴田家文書（戦国～江戸時代）	207通	寄託
征韓論の図（明治時代）	3枚続	購入
○佐賀県逆動記聞（明治時代）	3枚続	購入
○九州一覧図（明治時代）	1舗	購入
△上野戦争砲撃の図（明治時代）	1面	寄託

*美術

唐津市・少林寺寺宝類		寄託
・鎧金合子（中国・明時代）	1合	
・達磨図（耳峯玄熊筆 桃山時代）	1幅	
・禅林列祖図（江戸時代）	1幅	
・鷹図（桃山～江戸時代）	1幅	
・湖心碩鼎・天桂明完墨跡（室町・江戸時代）	1幅	
・金剛般若波羅蜜經（室町時代）	1帖	
阿弥陀如来坐像（平安時代）	1躯	
七山村東木浦糸迦堂／寄託		
○竹に亀図（成富椿屋筆 江戸時代）	1幅	寄託

△寿老図（江戸時代）	1幅	寄託	・真鑑製灯明皿	1点
○竹図（鍋島直彬筆 明治時代）	1幅	寄贈	矢立て（珍慶銘 江戸～明治時代）	1点 寄贈
大黒天図（広渡心海筆 江戸時代）	1幅	購入	「礪石鶴尾爐」感謝状（佐伯定胤筆 大正10年）	1幅 寄贈
聖護林偶成（亮茶翁筆 宝暦5年）	1幅	購入		
△夏景山水図（川端宝章筆 明治時代）	1面	寄託	郊外風景（小代為重 昭和時代）	1点 購入
△竹・梅図（草場佩川筆 江戸時代）	2幅	寄託	玉 葵（高木背水 昭和10年代）	1点 購入
△寿星図（草場佩川筆 萬延元年）	1幅	寄託	洋装の女（中沢弘光 1940年頃）	1点 購入
○平戸玉ノ戸弘之助（歌川国輝画 廉応2年）		1枚 寄贈	仰向けの裸婦（北島浅一 昭和時代）	1点 購入
			火宅の燐（古沢岩美 昭和23年）	1点 購入
○義経十九臣（歌川国芳画 安政2年）	1枚	寄贈	すたれもの（古沢岩美 昭和30年）	1点 購入
△子供あそび（歌川芳虎画 江戸～明治時代）		1枚 寄贈	バロックを孕んだフランソワの魚 (古沢岩美 昭和34～38年)	1点 購入
△宫廷人物図扇（中国・清時代）	2本	寄贈	肖像ーと（吉武研司 平成元年）	1点 寄贈
富士山図（山岡鉄舟筆 明治時代）	1幅	寄贈	絵日記ーはれものにさわるな（吉武研司 平成2年）	1点 寄贈
「金爐香尽漏声残…」二行詩（洪浩然筆 江戸時代）		1幅 寄託	翼を持つ二人のひと（古賀忠雄）	1点 寄贈
「南無阿弥陀仏」名号（洪浩然筆 江戸時代）		1幅 寄託	満ちゆく月（五貫研司 平成7年）	1点 管理換
△「国官間磐石之固」（鍋島直彬書 明治時代）		1幅 寄贈	万能な愛（雀田睦 平成7年）	1点 管理換
△五言絶句二首屏風（中林梧竹筆 明治20年代）		1隻 購入	大地の記憶（加賀谷健至 平成7年）	1点 管理換
書額「壹碧万歳」（中林梧竹筆 明治時代）		1面 寄託	夏柑子（田中恵美子 平成7年）	1点 管理換
△書額「南山寿」（中原南天棒筆 明治時代）		1面 寄託	Computer HighSchool II（岡田勝己 平成7年）	1点 管理換
「夷佩川八十」詩（鍋島直正筆 廉応2年）	1幅	寄託	ゆかいな家族（七田秀彦 平成7年）	1点 管理換
△「寂山懷古」詩（賴山陽筆 江戸時代）	1幅	寄託		
刀（八代忠吉作、九代忠吉銘 江戸時代）	1口	購入		
松竹梅鶴文柄鏡				
（松村因幡掾藤原重義銘江戸～明治時代）	1面	寄贈		
黒漆塗鏡掛（江戸～明治時代）	1点	寄贈		
蝶草花文蒔絵盃洗（江戸～明治時代）	1点	寄贈		
化粧道具一式（江戸～明治時代）		寄贈		
・花唐草文蒔絵小箱	1点			
・染付松竹梅文簪水入	1点			
・染付松竹梅鶴文白粉入	1点			
・染付松竹梅鶴文白粉入	1点			
・染付松竹梅鶴文水注	1点			
・染付松竹梅鶴文蓋	1点			
・真鑑製松竹梅鶴文渡し金	1点			
・真鑑製松竹梅鶴文盃	1点			
・真鑑製松竹梅鶴文水注	1点			
灯明具一式（江戸～明治時代）		寄贈		
・真鑑製灯明台	1点			
・真鑑製灯明台	1点			
・真鑑製灯明皿	1点			

2. 資料調査（博物館）

平成8年

4月9日	化石の種類（生物名）調査（久保田町）	学芸員 中原正登
5月21日	常設特別展『描かれた佐賀の祭礼』に伴う調査（鳥栖市・神埼町・佐賀市）	学芸員 山崎和文
5月22日	常設特別展『描かれた佐賀の祭礼』に伴う調査（武雄市）	学芸員 山崎和文
5月27日	常設特別展『描かれた佐賀の祭礼』に伴う調査（鹿島市）	学芸員 山崎和文
5月31日	タガメ調査（東脊振村）	学芸員 中原正登
6月3日	常設特別展『描かれた佐賀の祭礼』に伴う調査（諸富町・佐賀市）	学芸員 山崎和文
6月27日	常設特別展『鍋島閑叟の築いた佐賀』に伴う調査及び、購入資料調査	学芸員 野中耕介・本多美穂
9月3日	『肥前国産物図巻（仮称）』調査（鎮西町）	学芸員 山崎和文
9月12日	詩書屏風（洪浩然）調査（福岡市）	学芸員 本多美穂
9月19日	トンボ調査（久保田町）	学芸員 中原正登
10月2日	屏風（草場佩川）調査	学芸員 野中耕介
11月27日	盲僧琵琶調査（小城町）	学芸員 山崎和文
12月11日	盲僧琵琶調査（小城町）	学芸員 山崎和文

平成9年

1月16～18日	次年度企画展『日本の古墳』に伴う調査（奈良県・大阪府）	資料係長 蒲原宏行
2月18日	次年度企画展『日本の古墳』に伴う調査（大分県）	学芸課長 中牟田實治 資料係長 蒲原宏行
2月27日	歴史資料調査（和書類・軍礼服）（川副町）	学芸員 本多美穂
3月8日	がごぜ鬼面調査（奈良県）	学芸員 山崎和文
3月10～14日	次年度企画展『日本の古墳』に伴う調査（東京・埼玉・群馬・千葉）	資料係長 蒲原宏行
3月11～13日	歴史資料調査（東京都）	学芸員 本多美穂
3月23～28日	次年度企画展『日本の古墳』に伴う調査（奈良・大阪・京都・広島）	資料係長 蒲原宏行
3月28日	鬼面（古面）調査（鹿島市）	学芸員 山崎和文

3. 普及活動

(1) 資料の刊行

① 館 報

年4回、各号8頁で800部発行。

全国の主要博物館および美術館、ならびに研究機関、県内の教育機関、社会教育団体等に配布。企画展、常設展の案内、資料紹介、研究報告などを掲載。平成8年度刊行の各号の内容は下記のとおり。

No.113 (1996. 7. 1)

◇表紙—絹本着彩与賀神社縁起図（部分）永松玄偲筆

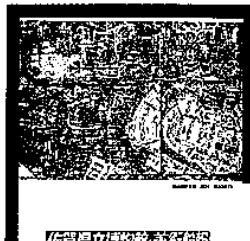
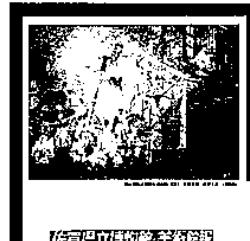
◇常設特別展案内

「明治美術・ニュー・モード／白馬会の画家たち」

「描かれた佐賀の祭礼—先導のかたちー」

「鍋島閑叟の築いた佐賀」

◇行事案内／人事異動

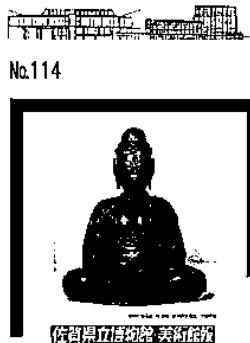
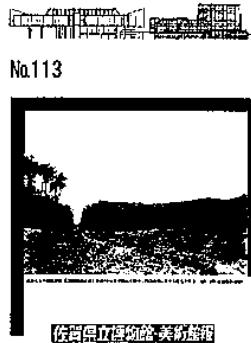


No.114 (1996. 8. 1)

◇表紙—長崎細見之図（部分）

◇佐賀県立博物館の常設展更新について

◇行事案内／日誌



No.115 (1996. 10. 20)

◇表紙—特別史跡基肄城跡の土壘と東北門

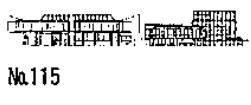
◇常設展案内「自然史分野『有明海の生き物』」

◇資料紹介

「諸富町・石塚1号墳出土遺物の紹介（平成7年度
寄託資料）」

「川副町中村家伝来 佐賀藩船奉行関係資料」

◇行事案内／日誌



No.116 (1997. 1. 20)

◇表紙—阿弥陀如来像（七山村・東木浦釈迦堂）

◇企画展案内「佐賀の信仰と美術—いのりのかたちー」

◇エッセイ

「『土肥春嶽回顧展』雑感」

「日本人洋画家が見たラファエル・コラン」

◇行事案内／日誌

② 博物館・美術館年報

平成7年度佐賀県立博物館・美術館年報No.26を刊行。平成7年度の管理概要、事業概要、資料概要、茶室の管理と運営の概要等を掲載し、各方面に配布。印刷部数800部、A4判、アート紙、54頁。

③ 調査研究書

平成8年度佐賀県立博物館・美術館調査研究書第22集を刊行、各方面に配布。印刷部数800部、A4判、アート紙、64頁。内容は下記のとおり。

菱科哲男（京都大学原子炉実験所・寄稿）

「宇木汲田遺跡出土ヒスイ製勾玉、碧玉製管玉
の産地分析」

(2) 博物館・美術館講座

博物館常設展テーマ展示「佐賀県出土の武器形祭器」
(平成9年3月4日～3月30日)にあわせて、下記の
講演会を実施した。

- ・日時 平成9年3月22日（土）
 - 演題 「弥生のマツリを考える－武器形祭器の謎－」
 - 講師 蒲原宏行（当館学芸員）
 - 会場 佐賀県立美術館1号A展示室
- ・日時 平成9年3月23日（日）
 - 演題 「考古学の年代はどうやって決めるのか」
 - 講師 高倉洋彰（西南学院大学文学部教授）
 - 会場 佐賀県立美術館1号A展示室



講演会風景

7月	実習科目(担当者)	
	午前	午後
5日(金)	常設展展示作業	
6日(土)	個人・グループでの館外実習	
8日(月)	工芸(宇治)	常設展展示作業
9日(火)	考古学実習(中牟田・蒲原)	
10日(水)	民俗(山崎)	近世美術(野中)
11日(木)	近代美術(松本)	中世美術(竹下)
12日(金)	座談会・実習ノート整理・閉講式	



博物館実習(常設展示作業)風景

(3) 博物館実習

学芸員養成講座を持つ大学からの要請により、7月
2日（火）から7月12日（金）までの10日間実施した。
カリキュラムは下記のとおり。

7月	実習科目(担当者)	
	午前	午後
2日(火)	開講式・見学・管理 運営(森・中原・石橋)	博物館・美術館の学芸活動 (森・中牟田・蒲原・松本)
3日(水)	歴史(本多)	自然史(中原)
4日(木)	常設展展示作業	

(4) 館外普及活動

佐賀県広報連絡会議出席(4月26日、5月28日、6月26日、7月26日、8月27日、9月26日、10月30日、11月26日、12月20日、1月30日、2月25日、3月21日)

4. 博物館観覧状況

① 博物館主催事業

常 設 展	有 料				無 料			
	個 人		團 体		(二番券)		高 校	中・小
	大 人	大 学	大 人	大 学	大 人	大 学		
佐賀県の歴史と文化	6,267	320	368		3,401	46	432	4,825

② 県関係事業（博物館）

展 覧 会 名	無 料					合 計
	大 人	大 学	高・中・小	障 害 者	招 待 者	
第46回佐賀県児童生徒理科作品展	696	18	514		13	1,241

無 料				合 計	開館日数	一日平均	期 間	会 場
障 害	招 待	優 待	その他					
163	162	78	1,543	17,605	229	77	4／26～3／31	1、2、3 大展示室

開館日数	一日平均	期 間	会 場	主 催
7	207	9／26～10／3	画廊・研修室	県理科教育振興会

資料の概要

1. 購入資料

(1) 考古資料

資料名	数量	備考
浜玉町谷口古墳出土石鉤（複製）	11点	古墳時代
浜玉町谷口古墳出土振史鏡（複製）	1点	古墳時代

(2) 美術・工芸資料

資料名	数量	備考
积迦苦行図 大木英鉄	1幅	江戸時代（寛文3年）
龍虎図 狩野山雪	2幅	江戸時代
松に鶴図 草場佩川	1幅	江戸時代

2. 寄贈資料

(1) 自然史資料

資料名	数量	備考
ウラキンシジミ標本	4点	佐賀市 坂井 文雄
フジミドリシジミ標本	4点	"
単体サンゴ化石	1点	武雄市 山田 卓
貝類標本	206点	佐賀市 松尾 仁志
オニバスの葉標本	1点	小城郡牛津町 上赤 博文

(2) 考古資料

資料名	数量	備考
佐賀市銚子塚出土二重口縁壺	1点	福岡県 松岡 史
大和町船塚古墳出土家形埴輪	1点	"
大和町肥前国分寺出土瓦（軒丸瓦・軒平瓦・平瓦・丸瓦）	8点	東京都 市場 立己
大和町肥前国分尼寺出土瓦（軒平瓦・丸瓦）	2点	"
大和町大願寺廃寺出土瓦（軒丸瓦・軒平瓦・平瓦・丸瓦）	5点	"
東脊振村辛上廃寺出土瓦（軒丸瓦・平瓦・丸瓦）	3点	"
小城町寺浦廃寺出土瓦（軒丸瓦・軒平瓦・平瓦・丸瓦）	4点	"
小城町円通寺出土瓦（軒丸瓦）	1点	"
浜玉町大村神社無怨寺出土瓦（丸瓦）	1点	"

(3) 歴史資料

資料名	数量	備考
佐賀藩船奉行関係資料（鍋島勝茂書状 他）	87点	神奈川県 中村 一郎
古澤家民俗資料（天秤秤 他）	870点	佐賀市 古澤恵美子
盲僧琵琶（荒神琵琶）	1面	小城郡小城町 光岡レイコ

3. 寄託資料

(1) 歴史資料

資料名	数量	委託者	備考
鍋島直正公 御実歴百話	1冊	東京都 個人	
唐金鯉魚文壺	1個	"	
管打銃	1挺	"	
鍋島直正公御実歴百図	1冊	"	

4. 資料貸出状況

資料名	貸出先・目的	貸出期間
肥前名護屋城図屏風・同複製・小城鍋島家伝来什器類 10点	大阪市立博物館ほか・「秀吉」展	H8.4.13~10.20
紺紙鏡字法華經・紺紙金字法華經・阿弥陀八大菩薩像 16点	奈良国立博物館・「東アジアの仏たち」展	H8.4.19~6.9
宇木汲田遺跡出土品・桜馬場遺跡出土品ほか 50点	滋賀県立安土城考古博物館・「弥生時代の墓制」展	H8.4.23~6.19
色絵花蝶八橋文壺・色絵牡丹文八角瓶ほか 3点	佐賀新聞社・「色絵の伝統・柿右衛門の美」展	H8.5.21~5.27
武人俑複製 1点	佐賀県立九州陶磁文化館・「文明とやきもの」展	H8.6.28~10.29
草木図・古梅図 3点	佐賀県立名護屋城博物館・「近世の書画」展	H8.7.8~9.4
鍋島直正書 1点	佐賀市大隈記念館・「大隈重信候回顧展」	H8.7.18~9.2
川寄吉原遺跡出土錐形土製品ほか 10点	北九州市立考古博物館・「繩文と弥生の神といのり」展	H8.7.30~9.25
三島唐津象嵌花文鉢・三島唐津象嵌雲鶴文鉢 2点	佐賀県立名護屋城博物館・「唐津焼の源流」展	H8.9.5~11.6
横田遺跡出土素環刀大刀・鉄劍 2点	国立歴史民俗博物館ほか・「倭国乱る」展	H8.9.10~H9.9.20
本村籠遺跡出土多鈕細文鏡・銅鑑 2点	小郡市教育委員会・「古代小郡の対外交渉」展	H8.9.26~12.11
大友遺跡出土貝輪 6点	佐賀県立名護屋城博物館・「東松浦半島の遺跡」展	H8.11.8~H9.1.22
古賀精里磨像ほか 15点	佐賀県立病院好生館・「好生館百周年」展	H8.12.12~12.23
アームストロング砲ほか 7点	国立科学博物館・「明治の近代化遺産」展	H9.2.13~7.7
瓢箪塚出土細形銅劍ほか 6点	祐徳博物館・考古室常設展	H9.2.26~4.3
色絵扇子持婦人像・色絵婦人像 2点	有田ヴィ・オー・シー・「ポーセリンドール」展	H9.3.19~7.18
呂色翫葉紋散八角貝桶 2点	福岡市博物館・「遊芸の美」	H9.3.27~5.28

5. 購入図書

図書名	発行所
日本原始時代の住居建築	中央公論美術出版
日本考古学用語辞典	学生社
世界のカワガタムシ大図鑑	むし社
日本史総覧 机上版	新人物往来社
復刻 満洲の在来農具	慶友社
日本国語大辞典	小学館

茶室「清恵庵」の管理と運営の概要

1 茶室規模及び施設

茶室「清恵庵」は昭和48年10月郷土出身の実業家故市村清氏のご意志により、同夫人幸恵氏より本県に寄贈されたもので、今年24年目を迎える。利用の傾向としては普及が広く一般に浸透し、県内の茶道各派のグループによる利用や、各種団体による茶会などに利用された。

設計者 堀 口 捨 己

早 川 正 夫

構 造 木造平家建 寄棟造り

規 模 床面積 57.35m²

2 茶室の利用状況

茶室「清恵庵」の利用については、24年目に入り、大学生茶道部をはじめ、各流派の茶道グループによる茶会等利用の幅も広まり、社会教育の一環として利用された。

月別にみた利用状況は次のとおりである。

平成8年度			
月	利用団体数	利用者数	見学者数
4	5	106	3
5	2	26	-
6	-	-	3
7	1	7	-
8	-	-	-
9	1	13	2
10	1	26	6
11	1	40	-
12	-	-	6
1	3	50	2
2	-	-	-
3	-	-	-
計	14	268	22

(※平成9年2月～3月は工事の為、閉室)

3 茶道具備品

平成8年度末の概況は次のとおり191点である。

掛物 淡々斎宗室、希斎宗有、大徳寺桃林の書、村瀬玄妙の書、完茶翁の二行書、千宗佐、千代尼

花入 胡銅、朝鮮唐津「中里重利作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原崖作」、備前焼、竹花入「生野祥雲斎作」、竹一重切花入「宗陵作」、有馬千鳥籠花入、有馬ひさご籠花入「昭竹斎作」、青磁鶴首花入「小笠原崖作」

香合・香炉 「12代今泉今右衛門作」、「井上萬二作」、黒牟田焼「丸田正美作」、「宗祥作」、菊花書詰蒔卵香合「助市作」、「13代今泉今右衛門作」、「源右衛門作」

茶碗 唐津奥高麗「中里無庵作」、絵唐津・唐津刷毛目「13代中里太郎衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原崖作」、青磁「中島宏作」、唐津井戸・唐津皮鯨茶碗「中里重利作」、白磁茶碗「初代忠右衛門作」、黒楽茶碗「小川良楽作」、志野茶碗「荒川豊蔵作」、支那姚、高麗斗々屋「千漢鳳作」

水指 信楽焼「高橋樂斎作」、朝鮮唐津「中里重利作」、小山路焼「江口勝美作」、染付「12代今泉今右衛門作」、高麗「千漢鳳作」

薄茶器 沈金瓈「安村稔作」

濃茶器 「13代酒井田柿右衛門作」

茶杓 「宗泰作」

風炉 利休面取風炉、切合唐銅風炉、合金面取風炉、鬼面共耳風炉

釜 切合釜・竹紋縁口釜「松寿作」、筋入炉釜、菊桐地紋炉釜、雲龍釜「高橋敬典作」、尻帳釜「高橋敬典作」、鬼面共耳風炉釜「横倉嘉山作」

棚 竹台子、桐丸卓、桑小卓、真塗長板

火入 染付「12代今泉今右衛門作」

菓子器 唐津焼「13代太郎衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、青磁「中島宏作」、現川焼

建水 不審庵伝来写「11代中川淨益作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、唐銅

風炉先屏風 秋草蒔絵

炉縁 高台寺蒔絵「柴田利雄作」

曲湯桶 置炉、瓶掛、蒟蒻塗四方盆、茶托と蓋、茶碾、茶壺

平成 8 年度

佐賀県立美術館

美術館の沿革

- 昭和55年3月 県政百周年記念事業の一環として、昭和58年開館を目指し、佐賀県立美術館の建設を決定。
- 昭和55年4月25日 佐賀県立美術館建設委員会設置。
- 12月10日 安井建築設計事務所による基本設計採用。
- 昭和56年3月31日 安井建築設計事務所による実施設計採用。
- 10月26日 佐賀県立美術館建設着工。
- 昭和58年1月31日 佐賀県立美術館建設完工。
- 4月1日 佐賀県立美術館設置条例施行。
佐賀県立博物館及び美術館協議会条例施行。
佐賀県立美術館処務規則施行。
- 10月7日 山口亮一氏遺作64点を山口三千也氏より寄贈受ける。
- 10月8日 佐賀県立美術館落成式、開館記念展「近代・九州の洋画家たち展」開催。
- 昭和61年9月1日 石本秀雄氏遺作31点を遺族より寄贈受ける。
- 昭和63年9月30日 佐賀県立美術館開館5周年記念展「田園風俗画展」開催。
- 平成4年8月11日 紀宮清子内親王殿下御視察。
- 平成5年10月8日 佐賀県立美術館開館10周年記念展「岡田三郎助展」開催。開館以来最高の入館者を記録した。
- 平成6年3月29日 古賀忠雄彫刻の森を開園。
- 7月22日 美術館所蔵名品巡回展「夏の美術館」(～8月7日、河村美術館)を開催する。当年度2会場、
以後引き続き開催。
- 平成7年1月18日 田原輝夫氏遺作69点を田原洋三氏より寄贈受ける。

規模及び施設

構 造	鉄筋コンクリート造	一階建	一部二階建	
規 模	敷地面積	7,986m ²		
	建築面積	3,644m ²		
	延床面積	4,238m ²		
施 設	1号展示室	204m ²	倉 庫	5m ²
	2号展示室	230m ²	ホール	529m ²
	3号展示室	250m ²	和楽室・洋楽室	39m ²
	4号展示室	366m ²	準備室	18m ²
	収蔵庫	319m ²	映写室	12m ²
	収蔵庫前室	26m ²	機械室	47m ²
	荷解場	120m ²	倉 庫	13m ²
	倉 庫	79m ²	便 所	34m ²
	画廊・準備室	137m ²	ホワイエ	126m ²
	研修室	135m ²	休憩室	56m ²
	事務室	148m ²	便 所	93m ²
	写真室・暗室	58m ²	廊下・階段等	
	機械室	80m ²		1,114m ²

歳出予算

科 目	予算額(単位千円)	科 目	予算額(単位千円)
(美術館費)		4. 企 画 展 費	18,703
1. 管理運営費	60,403	企 画 展 開 催 費	16,958
管 理 費	60,273	企 画 展 紹 介 費	1,745
会議及び研修費	130	5. 常 設 展 費	2,237
2. 資料整備費	35,938	6. 教 育 普 及 費	177
資 料 購 入 費	20,000	7. 施 設 整 備 費	24,026
資 料 整 備 費	15,938	8. 美 術 館 所 藏 名 品 巡 回 展 費	4,811
3. 調査研究費	134		
研 究 費	65		
調 査 費	69	計	146,429

事業の実施状況

1. 常設展

第Ⅰ期 常設特別展

明治美術・ニューモード／白馬会の画家たち

会期：平成8年6月26日(土)～9月16日(月)

会場：美術館2号展示室

内容：明治時代、日本近代美術史上あらたな思潮が西洋から流入してきたが、そのひとつが、明治20年代の黒田清輝、久米桂一郎らの帰国によってもたらされた外光派の画風と、その結果結成された白馬会であった。この白馬会は、明治時代のニューモード（新思潮）として、当時大きな影響力をもった。

本展は白馬会設立時の黒田清輝、藤島武二、小代為重、久米桂一郎、岡田三郎助ら鹿児島、佐賀両県の画家たちをはじめ、彼らのフランスにおける師であったラファエル・コラン及び白馬会展への出品者で佐賀県ゆかりの画家たちの作品を紹介した。

〈出品目録〉

ラファエル・コラン（1850～1916）

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 令妹の像（鹿児島市立美術館蔵） | 1890（明治23） |
| 2 日だまり | 1896（明治29） |
| 3 半裸の婦人（鹿児島市立美術館蔵） | 年代不詳 |
| 4 婦人像（鹿児島市立美術館蔵） | 年代不詳 |
| 小代為重（1861～1951） | |
| 5 シンガポール | 1900（明治33） |
| 6 スエズ運河 | 1900（明治33） |
| 7 婦人像 | 年代不詳 |
| 黒田清輝（1866～1924） | |
| 8 画室内 | 1889（明治22） |
| 9 風景（鹿児島市立美術館蔵） | 1892（明治25） |
| 10 小代為重像 | 1897（明治30） |
| 藤島武二（1967～1943） | |
| 11 老人像 | 1908-09（明治41-42） |
| 12 裸婦 | 大正時代 |
| 13 裸婦 | 1920年代 |
| 久米桂一郎（1866～1934） | |
| 14 泊船 | 1891（明治24） |
| 15 子供のいる風景 | 1895（明治28） |
| 岡田三郎助（1869～1939） | |
| 16 中野次郎助像 | c. 1890（明治23） |

- | | |
|--------------------|--------------|
| 17 西洋婦人像 | 1900（明治33） |
| 18 老人像 | 1901（明治34） |
| 19 若き娘の顔 | 1913（大正2） |
| 20 花野 | 1917（大正6） |
| 21 庭 | 1919（大正8） |
| 和田英作（1874～1959） | |
| 22 清水海岸（鹿児島市立美術館蔵） | 1908（明治41） |
| 23 富士山（鹿児島市立美術館蔵） | 1912（明治45） |
| 中沢弘光（1874～1964） | |
| 24 奈良風景 | 年代不詳 |
| 高木背水（1877～1943） | |
| 25 緑蔭 | 1911（明治44） |
| 26 英国風景 | 1911（明治44） |
| 山口亮一（1880～1967） | |
| 27 風景 | 1909（明治42） |
| 青木繁（1882～1911） | |
| 28 朝日 | 1910（明治43） |
| 北島浅一（1887～1948） | |
| 29 海辺の村 | c. 1916（大正5） |
| 御厨純一（1887～1948） | |
| 30 木蔭 | 1913（大正2） |
- 作品番号1, 3, 4, 9, 22, 23は鹿児島市立美術館所蔵。作品番号の斜体は寄託作品。

第Ⅱ期 三根霞郷の洋画と日本画

会期：平成8年12月12日(木)～12月23日(月)

会場：美術館2号展示室

内容：三根霞郷は1883年（明治16年）杵島郡橋村成（鳴瀬（現武雄市）に生まれた。1901年（明治34年）、小山正太郎の画塾不同舎に入門、当時不同舎には青木繁、坂本繁二郎らがいた。帰郷後は佐賀市与賀町に住居を定め、1912年（大正1年）伊万里市の臨済禪寺円通寺に参禪し、画境の転換をはかることになるが、1934年（昭和9年）、今日とし右京区の小倉山滝口寺が創建され、その堂守として同寺に隠棲した。こうした精神上の深まりにしたがい、画法も油彩画から水墨画へと転換していった。そして1946年（明治21年）同寺で没した。享年63歳であった。

本展は、異才画家三根霞郷の45年間にわたる画業において、油彩画から水墨画へと変化しながら、ひたすら自らの画境完成のために尽くしたその熱情を、美術館所蔵作品によって辿ってみようとしたものである。

〈出品目録〉

洋画

題名	制作年
1 上賀茂風景	1914(大正3)
2 円山公園	1917(大正6)
3 アイヌの顔	1924(大正13)
4 農夫(土運ぶ人)	1927(昭和2)
5 腰かける女	1927(昭和2)
6 伏見の酒倉	1927(昭和2)
7 巨樹	1928(昭和3)
8 水溜	1928(昭和3)
9 山道	1930(昭和5)
10 山越え	1930(昭和5)
11 奥嵯峨の雜木林	1932(昭和7)
12 荷車を引く人	1932(昭和7)
13 裸婦	1934(昭和9)
14 農村(果樹園)	1935(昭和10)
15 自画像	1935(昭和10)
16 姉妹	1935(昭和10)
日本画	
17 姉妹	1935(昭和10)
18 白梅	1936(昭和11)
19 冬の紅森	1937(昭和12)
20 田園の孤橋	1937(昭和12)
21 渓流の石橋	1937(昭和12)
22 石渓	1938(昭和13)
23 けいとう	1939(昭和14)
24 樹下遊童	1939(昭和14)
25 若松の丘	1940(昭和15)
26 初夏	1941(昭和16)
27 老松	1942(昭和17)
28 農家八棟	1943(昭和18)
29 丘陵の若松	1943(昭和18)
30 農村Ⅰ	1944(昭和19)
31 農村Ⅱ	1944(昭和19)
32 農村Ⅲ	1944(昭和19)
33 晩秋の雜木林	1944(昭和19)
34 雜木林Ⅱ	1944(昭和19)
35 山陰の漁村	1945(昭和20)

工芸 1号B展示室

近代の工芸

佐賀県の近代工芸のシリーズとして、金工、陶磁、染織Ⅰ、染織Ⅱの4回にわたって展示した。

第Ⅰ期 近代の金工

会期：平成8年4月26日(土)～7月7日(日)

会場：美術館1号B展示室

内容：近代の工芸のシリーズ1として、金工の作家・石田英一、松尾忠次の作品を展示した。

〈出品目録〉

石田英一(1876～1960)

1 錫金置物 布袋像	明治38～44年(1905～11)頃
2 錫金 壺	大正15年(1926)
3 鎏起 菩公像	昭和10年(1935)
4 鎏起 葡萄栗鼠像	昭和12年(1937)頃
5 錫金 小雀花瓶	昭和10～20年代(1935～1955)

松尾忠次(1909～)

6 金銀鉄花器	昭和33年(1958)
7 金工 作品	昭和39年(1964)
8 布目象嵌器	昭和51年(1976)
9 金工 断層	平成元年(1989)

第Ⅱ期 近代の陶磁

会期：平成8年7月12日(金)～9月16日(日)

会場：美術館1号B展示室

内容：近代の工芸のシリーズ2として、12代酒井田柿右衛門など陶芸作家の作品を展示した。

〈出品目録〉

12代酒井田柿右衛門(1878～1963)

1 潤手色絵草花文蓋物	昭和33年(1958)頃
2 潤手色絵花鳥文花瓶	昭和36年(1961)頃
中里無庵(1895～1985)	
3 叩き朝鮮唐津壺	昭和37～38年(1962～63)頃
12代今泉今右衛門(1897～1975)	
4 色鍋島更紗文八角大皿	昭和38年(1963)頃
初代松本佩山(1985～1961)	
5 五彩布目雲獸文大皿	昭和16年(1941)
6 白磁螢手鈴蘭形花器	昭和35～36年(1960～61)頃
初代奥川忠右衛門(1901～1975)	
7 白磁牡丹彫文花瓶	昭和40年(1965)
丸田正美(1925～1979)	

8 塩釉黒釉流し文盛器 昭和38~39年(1963~64)頃

第Ⅲ期 近代の染織 I

会 期：平成8年11月19日(火)～平成9年1月19日(日)

会 場：美術館1号B展示室

内 容：近代の工芸のシリーズ3として、染織の作家

・鈴田照次、相島正彦の作品を展示了。

〈出品目録〉

鈴田照次 (1916~1981)

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 型絵染着物 茄葉文 | 昭和31年 (1956) |
| 2 型絵染壁掛 面浮立図 | 昭和36年 (1961) |
| 3 木版摺更紗着物 木立鳥文 | 昭和48年 (1973) |
| 4 木版摺更紗着物 朱央柳文 | 昭和56年 (1981) |
| 相島正彦 (1922~1994) | |
| 5 佐賀錦三ツ折り 「霧」 | 昭和48年 (1973) |
| 6 佐賀錦三ツ折り小帛紗入「和」 | 昭和49年 (1974) |
| 7 佐賀錦三ツ折りバッグ 「氷紋」 | 昭和50年 (1975) |
| 8 佐賀錦三ツ折りバッグ 「祈念」 | 昭和52年 (1977) |
| 9 佐賀錦三ツ折りバッグ 「渚」 | 昭和53年 (1978) |
| 10 佐賀錦帯 「彩光」 | 昭和53年 (1978) |

第Ⅲ期 近代の染織 II

会 期：平成9年1月25日(土)～3月30日(日)

会 場：美術館1号B展示室

内 容：近代の工芸のシリーズとして、染織の作家・

城 秀男、小川泰彦の作品を展示了。

城 秀男 (1911~)

- | | |
|------------|--------------|
| 1 染色屏風 現代想 | 昭和44年 (1969) |
| 2 染色 山暉 | 昭和57年 (1982) |
| 3 染色 山麓 | 昭和59年 (1984) |

小川泰彦 (1927~)

- | | |
|--------------|--------------|
| 4 染色屏風 深蒼 | 昭和42年 (1967) |
| 5 染色屏風 有明 | 昭和54年 (1979) |
| 6 染色屏風 帰る日近く | 昭和50年 (1975) |

2. 佐賀県立美術館所蔵品巡回展

名称：冬の美術館

—昭和・平成を繋ぐ佐賀の洋画家たち—

会期：平成8年12月6日(金)～12月15日(日)

休館日 12月9日(月)

主催：佐賀県立美術館

共催：鳥栖市立図書館

後援：鳥栖市、鳥栖市教育委員会、佐賀県博物館協会

会場：鳥栖市立図書館

鳥栖市布津原町11-21

観覧料：無料

内容：佐賀県ゆかりの洋画家20人（高木背水、山口亮一、北島浅一、御厨純一、武藤辰平、松本弘二、田原輝夫、山口猛彦、石本秀雄、宮地亨、久保実雄、納富進、古沢岩美、村岡平蔵、久富邦夫、吉田西絹、深川善次、吉田進一、吉武研司、野村昭嘉）の作品32点を展示了。

図録：仕様 A4版変形 40頁

内容 写真 カラー 8点

モノクロ 24点

エッセイ「日本近代洋画史における佐賀」



「冬の美術館」図録表紙

名称：春の美術館—西渓公園に薫る美の花園—

会期：平成9年3月7日(金)～3月23日(日)

休館日 11日(火)、18日(火)

主催：佐賀県立美術館

共催：多久市郷土資料館・先覚者資料館

後援：多久市、多久市教育委員会、佐賀県博物館協会

会場：多久市郷土資料館・先覚者資料館

多久市多久町1975

観覧料：無料

内容：洋画では、百武兼行、久米桂一郎、岡田三郎助、高木背水、北島浅一、御厨純一の作品。工芸では、陶磁器の12代酒井田柿右衛門、12代今泉今右衛門、12代中里太郎右衛門、初代松本嵐山。染織の鈴田照次、相島正彦、城秀男、小川泰彦。ガラスの副島太郎の作品などで、総計35点を展示了。

講演会：3月8日(土)

場所 多久市中央公民館・視聴覚室

演題 日本近代美術の礎・佐賀の洋画家たち

講師 県立美術館企画普及係長 松本誠一

図録：仕様 A4版変形 40頁

内容 写真 カラー 9点

モノクロ 26点

エッセイ「日本近代洋画史における佐賀」



「春の美術館」図録表紙

3. 企画展

名 称：佐賀の信仰と美術—いのりのかたち—
 会 期：平成9年1月25日(土)～3月2日(日)
 会 場：美術館2～4号展示室
 主 旨：佐賀県は、脊振・黒髪・多良の【山岳部】、肥沃な【佐賀平野】、外海に接した【松浦地方】と地理的变化に富み、それぞれに地域色豊かな信仰と、そこから生まれた美術をはぐくんできた。

当館は、このような信仰にかかわる特色ある佐賀の文化を明らかにするため、平成4年度から4カ年計画で、文化庁と市町村教育委員会の協力をえて、県内の49市町村、227カ所にのぼる神社、仏閣に所蔵されている文化財の調査をおこない、多くのすぐれた文化財を新たに見いだした。

今回の展覧会は、この調査の成果をもとに開催するもので、美しい仏像や絵画、工芸品など約100点を観賞していただき、それを生みだし、伝えている佐賀の精神的風土や歴史的背景を紹介した。



図録表紙

展示内容と主な出品作品：

[山岳仏教] 阿弥陀如来像（平安時代 七山村・東木浦积迦堂）、千手觀音菩薩像（平安時代 唐津市・夕日觀音堂）、大日如来像（平安時代 佐賀市・妙福寺）、瓦經（築山經塚出土 天養元年 大和町教委）、吉祥天曼茶羅（南北朝時代 有明町・玉泉坊）、五鉢杵（鎌倉時代 山内町・定林寺）、神像（平安時代 姫野町・両岩神社）

[禅寺と律院] 积迦如来像（鎌倉時代 三田川町・東妙寺）、十一面觀音菩薩像（湛誉、湛真作 正和4年 三田川町・東妙寺）、普賢延命菩薩騎象像（康俊作 正中3年 佐賀市・龍田寺）、藏山順空像（正安2年 大和町・高城寺）、持国天像・多聞天像（湛康作 永仁2年 小城町・円通寺）、觀音菩薩像（湛勝作 暦応5年 玄海町・普恩寺）、十一面觀音菩薩像（伝円慶作 永仁6年 有明町・福泉寺）

[大名の信仰] 地蔵菩薩像（鍋島綱茂筆 江戸時代 佐賀市・高伝寺）、积迦三尊像（周徳筆 室町時代 佐賀市・高伝寺）、鍋島直能像（江戸時代 三日月町・玉毫寺）、成姫像（江戸時代 佐賀市・慈音院）

[中国・朝鮮の美術] 誕生仏（新羅時代 北波多村・常安寺）、如来像（高麗時代 唐津市・大聖院）、普賢菩薩騎象像（嘉靖6年 乌栖市・安生寺）、楊柳觀音像（至大3年 唐津市・鏡神社）、法華經（高麗時代 鍋島報效会）

[唐津と博多] 湖心頃鼎像（享禄4年 唐津市・近松寺）、牡丹文鎗金合子（湖心頃鼎請來 明時代 唐津市・少林寺）、耳峯玄熊像（桃山時代 唐津市・近松寺）

図録ならびに記念講演会については、5. 普及活動(33頁) 参照。

4. 資料調査（美術館）

平成8年

5月26～28日	企画展『佐賀の信仰と美術』に伴う調査（東京・横浜）	学芸員 竹下正博
6月20日	屏風・掛幅等調査（佐賀市）	学芸員 野中耕介・竹下正博・本多美穂
9月2～5日	次年度企画展『田原輝夫』に伴う調査（神戸）	企画普及係長 松本誠一
9月10日	書（土肥春嶽）調査（佐賀市）	学芸員 野中耕介
9月19日	企画展『佐賀の信仰と美術』に伴う調査（福岡市）	学芸員 竹下正博
9月20日	企画展『佐賀の信仰と美術』に伴う調査（七山村）	学芸員 竹下正博
9月25～26日	企画展『佐賀の信仰と美術』に伴う調査（大和町）	学芸員 竹下正博
12月4日	「竹雀図」（長谷川雪旦）調査（佐世保市）	学芸員 野中耕介・竹下正博

平成9年

2月15日	中牟田佳彰作品（金属工芸）調査（筑紫野市）	学芸課長 中牟田賢治 学芸員 宇治章
3月20日	仏像調査（和歌山県）	学芸員 竹下正博

5. 普及活動

(1) 資料の刊行

図録

企画展「佐賀の信仰と美術」にともない刊行した。

A4版変形

112頁（オールカラー）

印刷部数 1,000部

*館報、年報、調査研究書については博物館普及活動
の項に記載。

(2) 実技講座

内容：石膏デッサン教室

講師：佐賀東高校 深川直人氏

会期：平成8年7月15日(月)～19日(金)

（5日間 午後2～4時）

会場：美術館画廊・研修室

受講者：34人



石膏デッサン教室

(3) 研究講座

企画展「佐賀の信仰と美術」記念講演会

演題：「仏像の美」

講師：西村公朝氏（仏師、東京芸術大学名誉教授）

日時：平成9年2月22日(土) 午後2～4時

場所：佐賀県立美術館ホール

聴講者：600人

(4) 館外普及活動

平成9年1月8日(水)～14日(火) 企画展「佐賀の
信仰と美術」普及

(5) 映画会

平成8年度夏休み親と子の映画会

期日：平成8年8月3日(土)、4日(日)

場所：佐賀県立美術館ホール

上映時間：10時30分～15時40分

上映作品：「仮面ライダーX」

「みつばちマーヤの冒険」

「路ぼうの石」

「鉄腕アトム」

「ジャングル大帝」

観客数：528人（3日）、370人（4日）



企画展記念講演会

6. 美術館観覧状況

① 美術館主催事業

常 設 展	有 料				無 料			
	個 人		団 体		大 人	大 学	高 校	中・小
	大 人	大 学	大 人	大 学				
佐賀県の歴史と文化	人 1,944	人 48	人 49	人 —	人 1,217	人 64	人 345	人 633
企 画 展	有 料				無 料			
	個 人		団 体		大 人	大 学	高 校	中・小
	大 人	大 学	大 人	大 学				
佐賀の信仰と美術展	2,785	54	—	161	—	—	43	450
合 計 (常設展+企画展)	4,729	102	49	161	1,217	64	388	1,083

② 県関係事業

展 覧 会 名	無 料					
	大 人	大 学	高・中・小	障 害 者	招 待 券	優 待 券
第28回佐賀県勤労者美術展	1,164	—	103	—	—	—
第8回佐賀県高等学校総合文化祭－書道展－	376	4	402	—	—	—
第8回佐賀県高等学校総合文化祭－美術・工芸－	560	23	420	—	—	—
県立病院好生館100周年記念展	1,532	12	350	—	—	—
合 計	3,632	39	1,275	—	—	—

無 料				合 計	開館日数	一日平均	期 間	会 場
障 害	招 待	優 待	その他の					
人 34	人 35	人 42	人 449	人 4,860	日 79	人 62	6／29～9／16 12／12～12／23	

無 料				合 計	開館日数	一日平均	期 間	会 場
障 害	招 待	優 待	その他の					
70	1,607	95	313	5,578	34	164	1／25～3／2	2、3、4号

104	1,642	137	762	10,438	113	92		
-----	-------	-----	-----	--------	-----	----	--	--

合 計	開館日数	一日平均	期 間	会 場	主 催
1,267	5	253	8／28～9／1	美4号	県労政能力開発課
782	4	196	11／7～11／10	美2～4号	県高等学校文化連盟
1,003	5	201	11／13～11／17	"	県高等学校文化連盟
1,894	11	172	12／12～12／23	美3号	県立病院好生館
4,946	25	198			

③ 県関係事業(有料)

展覧会名	有 料				無 料			
	個 人		団 体		収 博 券		高 校	中・小
	大 人	大 学	大 人	大 学	大 人	大 学		
I A C 会員展	人 547	人 41	人 —	人 79	人 3,631	人 978	人	
第46回佐賀県美術展覧会	4,431	115	365	23	—	1,035	968	
九州北部三県文化交流展 -異国文化の導入-	670	57	—	32	—	153	186	
合 計	5,648	213	365	134	3,631	3,320		

④ 民間団体主催事業(有料)

展覧会名	有 料							
	個 人				団 体			
	大 人	大 学	高 校	中・小	大 人	大 学	高 校	中・小
第27回日展佐賀会場	15,558	646	432	988	172	51	931	202
日本伝統芸能絵画展 (能英樹画)	466	—	—	—	—	—	—	—
風の画家 中島潔の世界展	10,375	2,172	—	—	—	—	—	—
第80回二科展	4,731	437	624	48	598	—	350	—
土肥春嶽回顧展	5,447	—	—	—	—	—	—	—
竹久夢二展	7,159	高・中 435	—	66	—	—	—	—
合 計	49,470	—	—	—	2,418	—	—	—

無 料			合 計	開館日数	一日平均	期 間	会 場	主 催
障 害	招 待	優 待						
人 14	人 486	人 9	人 5,829	日 15	人 389	9／27(金)～10／13(日)	美1～4号	佐賀県文化課
66	1,091	888	8,982	9	998	10／26(土)～11／4(月)	博2、3号 美1～4号	佐賀県文化課
—	733	306	2,137	16	134	11／21(木)～12／8(日)	美2～4号	長崎県立 美術博物館
80	2,310	1,203	16,948	40	424			

無 料	合 計	開館日数	一日平均	期 間	会 場	主 催
招 待 等						
3,698	22,678	21	1,080	3／29(金)～4／21(日)	博2、3号 美1～4号	西日本新聞社
214	680	6	113	4／9(土)～4／14(日)	画・研	緒方秀利
1,879	14,426	10	1,443	4／26(金)～5／6(月)	美2、3号	佐賀新聞社
2,240	9,028	15	602	5／10(金)～5／26(月)	美2～4号	"
1,634	7,081	16	443	1／2(木)～1／19(日)	美2～4号	土肥春嶽 回顧展 実行委員会
2,349	10,009	23	435	3／19(木)～4／13(日)	美2～4号	佐賀新聞社
12,014	63,902	91	702			

(5) 民間団体主催事業(無料)

展覧会名	大人 (大学生以上)	子供 (高校生以下)	合計
第19回絵をかく子供の会展	394人	172人	566人
グループ展WALL・ACTIVE	300	140	440
第7回泉州の会	1,114	104	1,218
AIS展IV 1996展	885	293	1,178
個展の発表	155	90	245
馬星華中国水墨画佐賀教室展	913	49	962
グループ一渦展	532	235	767
火曜日の画家たち展	911	35	946
へたくそ展	326	105	431
梧竹、蒼海顯彰 第4回佐賀県書道展(前期)	995	57	1,052
" (後期)	731	23	754
第79回佐賀美術協会展	2,183	618	2,801
世界・森の博覧会記念 第24回大空書道展	957	562	1,519
器楽展	313	85	398
第13回佐賀県写真協会公募展	1,224	78	1,302
金武自然水墨画展	849	-	849
第38回佐賀大学教育学部美術・工芸科総合展	722	336	1,058
第26回独立C.S.展	378	187	565
日韓文化交流デザイン・工芸展	579	99	678
第37回東光会佐賀支部緑光会展	626	435	1,061
ペタ展	513	216	729
第17回九州新工芸展	570	172	742
羽立さつき個展	215	59	274
第21回佐賀県書作家協会展	1,192	128	1,320
佐賀北高校O.B.展	357	74	431
創元会佐賀県支部展	455	50	505
四人展	251	72	323

開館日数	一日平均 人	期間	会場	主催
5日	113	4/3(木)~4/7(日)	画・研	山崎佳須枝
6	73	4/16(火)~4/21(日)	画・研	石丸英章
6	203	4/23(水)~4/28(日)	画・研	大久保孝夫
6	196	5/1(木)~5/6(月)	4号	グループSUS
6	41	5/1(木)~5/6(月)	画	斎藤郁子
5	192	5/8(火)~5/12(日)	画・研	山口 寛
6	128	5/14(水)~5/19(日)	画・研	小柳信夫
6	158	5/21(木)~5/26(日)	画・研	火曜日の画家たち
6	72	5/28(木)~6/2(日)	画・研	中村仙子
3	351	5/31(金)~6/2(日)	2・3・4号	佐賀新聞社
3	251	6/5(火)~6/7(木)	2・3・4号	佐賀新聞社
10	280	6/13(木)~6/23(日)	画・研 2・3・4号	佐賀美術協会
6	253	6/25(火)~6/30(日)	4号	佐賀県書道教育連盟
6	66	6/25(火)~6/30(日)	画・研	本島民子
6	217	7/2(火)~7/7(日)	4号	佐賀県写真協会
6	142	7/2(火)~7/7(日)	画・研	金武一二
6	176	7/9(火)~7/14(日)	画・研・4号	佐賀大学教育学部
6	94	7/16(火)~7/21(日)	4号	独立CS展
6	113	7/23(火)~7/28(日)	4号	佐賀新聞社
6	177	7/30(火)~8/4(日)	4号	緑光会
6	122	7/30(火)~8/4(日)	画・研	杉光政実
6	124	8/6(木)~8/11(火)	4号	九州新工芸家連盟
6	46	8/6(木)~8/11(火)	画	羽立さつき
5	264	8/13(木)~8/18(火)	4号	佐賀県書作家協会
5	86	8/13(木)~8/18(火)	画・研	近藤笑子
6	84	8/20(木)~8/25(火)	4号	創元会佐賀県支部
6	54	8/20(木)~8/25(火)	研	堀内賢治

展覧会名	大人 (大学生以上)	子供 (高校生以下)	合計
アクワール会展	642人	52人	694人
多久島徳造回顧展	1,464	214	1,678
第13回佐賀水墨画会展	755	51	806
佐賀西高校創立120周年記念美術・書道展	857	276	1,133
Loose Factory	96	40	136
第2回成富芳麗水墨画展	465	43	508
グループ $\frac{3}{3}$ 展	176	27	203
第37回佐賀県学童美術展	1,936	1,553	3,489
第6回新構造佐賀支部展	673	155	828
第17回佐賀新聞学生書道展	330	134	464
江樹会展	437	23	460
佐賀県高等学校美術教師作品展	855	311	1,166
さが行動展	417	108	525
個展 “縁97”	130	9	139
舟一朝と百人の子供展	183	164	347
第10回蒼松会展	885	67	952
白水会展	636	39	675
第20回佐賀の子どもたちの版画展	1,282	1,199	2,481
第27回グループ「きしま」展	471	25	496
第41回佐賀大学教育学部美術・工芸科卒業制作展	524	41	565
第3回佐賀大学大学院教育学研究科 教育専攻美術教育専修修了作品展	325	113	438
第19回二紀佐賀支部展	430	64	494
第20回絵をかく子供の会展	311	224	535
ハチロク展	1,270	237	1,507
合計	34,190	9,643	43,833

開館日数	一日平均	期間	会場	主催
6日	116人	8/27(火)~9/1(日)	画・研	アグワレル会
6	280	9/3(火)~9/8(日)	4号	多久島徳造回顧展実行委員会
7	115	9/10(火)~9/16(月)	4号	佐賀水墨画会展
5	227	9/18(木)~9/22(日)	画・研	佐賀西高等学校
3	45	10/4(金)~10/6(日)	画・研	吉原 優
6	85	11/26(火)~12/1(日)	画・研	成富芳麗
6	34	12/3(火)~12/8(日)	画・研	白石 雄一
6	582	12/10(木)~12/15(日)	4号	佐賀県造形教育研究会
6	138	12/10(木)~12/15(日)	画・研	富永定雄
6	77	12/17(火)~12/22(日)	4号	佐賀新聞社
7	66	12/17(火)~12/23(月)	画・研	江樹会
6	194	1/7(火)~1/12(日)	画・研	佐賀県高等学校美術部会
6	88	1/14(木)~1/19(日)	画・研	さが行動美術協会
6	23	1/21(火)~1/26(日)	画	吉丸 崇
6	58	1/21(火)~1/26(日)	研	舟一朝
12	79	1/28(火)~2/9(日)	画・研	蒼松会
6	113	2/11(火)~2/16(日)	画・研	白水会
6	414	2/18(木)~2/23(日)	画・研	佐賀絵の会
6	83	2/25(火)~3/2(日)	画・研	グループ「きしま」
6	94	3/8(土)~3/14(金)	2号	佐賀大学文化教育学部
6	73	3/8(土)~3/14(金)	画・研	"
6	82	3/18(火)~3/23(日)	画・研	二紀佐賀支部
5	107	3/26(火)~3/30(日)	画・研	山崎佳須枝
5	301	3/26(火)~3/30(日)	1号	ハチロク会
302				

7. ホール・画廊・研修室利用状況

ホール

月別	利用団体数	延入場者数	音 楽	演 剧	洋舞・邦舞	映写会	その他	備 考
4	11	2,552	9	1			1	
5	9	2,627	6	1			2	
6	6	1,410	3	1	1		1	
7	6	3,769	4		1		1	
8	10	3,912	3			2	5	
9	7	1,458	4				3	
10	6	720	5				1	
11	14	2,828	8				6	
12	12	2,230	9	2	1			
1	5	1,333	2	1			2	
2	10	3,673	4	4			2	
3	10	3,372	8				2	
計	106	29,884	65	10	3	2	26	

画廊・研修室

月別	展覧会			そ の 他
	利用団体数	延会期	入場者数	
4	4	23	2,904	
5	5	27	3,118	
6	2	18	631	
7	3	14	1,452	
8	4	26	2,140	
9	3	17	2,785	
10	1	6	499	
11	1	5	357	
12	3	14	1,642	
1	5	28	2,502	
2	3	24	3,894	
3	4	24	3,259	
計	38	226	25,283	

資料の概要

1. 新収蔵（購入・寄贈）資料

日本画

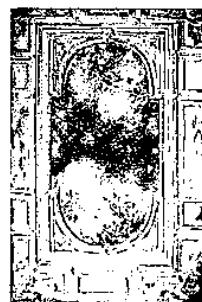
佐賀県立美術館

洋画



1 F-20-2-1

川崎千虎 KAWASAKI, Chitora
1835～1902
四条涼之図
Enjoying the cool air at Shijo
明治時代
紙本淡彩 137.6×61.7
左下「日本繪 納太郎」印
平成8年度 購入 9879



1 F-20-3-1

岡田三郎助 OKADA, Saburōsuke
1869～1939
天井画 下絵
Painting on the ceiling (sketch)
1906 (明治39)
油彩・板 55.4×36.5
左下「S. O.」印
平成8年度 購入 9776



2 F-20-2-1

鍋島紀雄 NABESHIMA, Tadao
1897～1968
故世の梅
Japanese apricots in the world beyond
1967 (昭和42)
岩絵具・墨・紙 169.4×139.0
平成8年度 購入 10026



2 F-20-3-1

中沢弘光 NAKAZAWA, Hiromitsu
1874～1964
海景
Sight of the sea
1919 (大正8)
油彩・カンヴァス 60.6×80.5
左下「Hiromitsu Nakazawa/1919」
平成8年度 購入 10031



3 F-20-3-1

中沢弘光 NAKAZAWA, Hiromitsu
1874～1964
秋景 (嵐峡)
Autumn scene (Arashiyama-dale)
1932 (昭和7) か
油彩・カンヴァス 45.5×52.8
左下「Hiromitsu Nakazawa/19□□」
平成8年度 購入 10029



4 F-20-3-1

高木背水 TAKAGI,Haisui
1877~1943
大同江
Taedong Kang
昭和10年代
油彩・キャンヴァス 49.7×60.6
右下「背水」
平成8年度 購入 9880



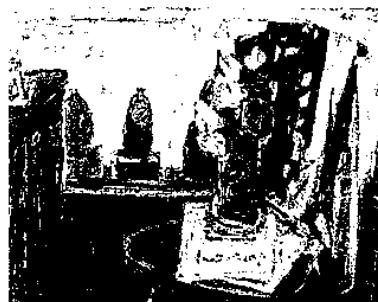
7 F-20-3-1

田原 輝 TAHARA,Teru
1900~1982
大日如来
Dainichi-nyorai (Mahavirocana)
1978 (昭和53)
油彩・キャンヴァス 112.2×131.0
右下「輝」
平成8年度 寄贈 9875



5 F-20-3-1

田原 輝 TAHARA,Teru
1900~1982
卓上
On a desk
1926 (大正15)
油彩・キャンヴァス 80.7×99.8
左上「TERUO/1926」
平成8年度 寄贈 9876



8 F-20-3-1

田原 輝 TAHARA,Teru
1900~1982
静物
Still life
年代不詳
油彩・キャンヴァス 73.1×90.9
左上「輝」
平成8年度 寄贈 9762



6 F-20-3-1

田原 輝 TAHARA,Teru
1900~1982
咲
Om
1953 (昭和28)
油彩・キャンヴァス 130.7×162.5
左下「昭和二十八年/輝夫」
平成8年度 寄贈 9763



9 F-20-3-1

甲斐仁代 KAI,Hitoyo
1902~1963
北京の秋
Autumn in Peking
1943 (昭和18)
油彩・キャンヴァス 37.9×45.4
左下「2603/Hitoyo KAI」
平成8年度 購入 9777



10 F-20-3
池田龍雄 IKEDA,Tatsuo
1928~
ボタ山に働く人 B
Workers at a coal-slag heap
1953 (昭和28)
インク・コンテ・油彩・水彩・紙 24.8×34.4
下「53/T.Ikeda」
平成8年度 購入 10025



13 F-20-3
池田龍雄 IKEDA,Tatsuo
1928~
覆面
Mask
1956 (昭和31)
インク・油彩・水彩・紙 39.2×27.6
左下「Ikeda」
平成8年度 購入 10022



11 F-20-3
池田龍雄 IKEDA,Tatsuo
1928~
ちから
Strength
1953 (昭和28)
インク・油彩・水彩・紙 24.5×30.7
下「Ike」
平成8年度 購入 10023



14 F-20-3
池田龍雄 IKEDA,Tatsuo
1928~
砦
Fort
1959 (昭和34)
コンテ・インク・油彩・水彩・紙 29.7×23.5
左下「Ikeda.59」
平成8年度 購入 10021



12 F-20-3
池田龍雄 IKEDA,Tatsuo
1928~
酒場「立川」
Bar "tachikawa"
1954 (昭和29)
インク・油彩・水彩・紙 38.1×26.2
右下「54/Ike」
平成8年度 購入 10024



1 F-20-3-2

田中宗一 TANAKA,Soichi
1888~1977
アマリリス
Amaryllis
1951 (昭和26)
水彩・紙 24.0×18.9
右下 「審印 26.5」
平成8年度 寄贈 9754



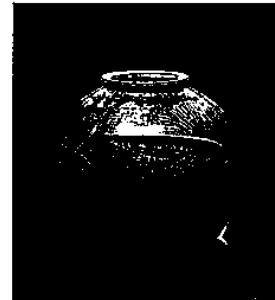
2 F-20-2-0

鍋島紀雄 NABESHIMA,Tadao
1897~1968
故世の梅 下絵 I
Japanese apricots in the world beyond
(sketch I)
1967 (昭和42)
コンテ・紙 96.8×69.5
平成8年度 購入 10027



3 F-20-2-0

鍋島紀雄 NABESHIMA,Tadao
1897~1968
故世の梅 下絵 II
Japanese apricots in the world beyond
(sketch II)
1967 (昭和42)
コンテ・紙 96.8×69.5
平成8年度 購入 10028



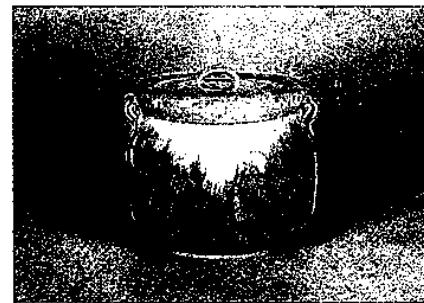
1 F-40-3

13代 中里太郎右衛門 NAKAZATO,Tarōemon XIII
1923~
叩き唐津翡翠白象嵌魚文壺
Vase with fish design,with cobalt-blue glaze
1995 (平成7)
陶器 口径14.5 高さ27.8 底径22.7
平成8年度 管理換 10033



2 F-40-3

13代 中里太郎右衛門 NAKAZATO,Tarōemon XIII
1923~
唐津井戸茶碗
Tea bowl : Ido type
1995 (平成7)
陶器 口径15.0 高さ8.8 底径5.4
高台脇「た」彫銘
平成8年度 管理換 10034



3 F-40-3

13代 中里太郎右衛門 NAKAZATO,Tarōemon XIII
1923~
叩き朝鮮唐津耳付水指
Water container with iron-brown and straw-ash glaze
1995 (平成7)
陶器 口径13.2 蓋付高17.5 底径15.1
底部「平成七年五月七日 十三代太郎右衛門」彫銘
平成8年度 管理換 10035



1 F-10-1

牟田綾子 MUTA,Ayako
1932～
新古今和歌のうた
'Kana' of Sankokin-waka
1996(平成8)
紙本墨書き 24.8×11.8(折本)
平成8年度 管理換 9784



4 F-30-1

塩田裕紀 SHIOTA,Hironori
1962～
哲学者(オオハゲコウ)
Philosopher (A kind of Stork)
1996(平成8)
樹脂 H.119
平成8年度 管理換 9780



2 F-20-2-1

川内丸舞子 KAWACHIMARU,Maiko
1977～
明日も
And tomorrow too
1996(平成8)
岩絵具・紙 91.0×117.2
平成8年度 管理換 9781



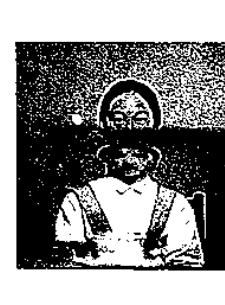
5 F-20-0

江原るみ EHARA,Rumi
1975～
イメージーMの印象ー^イ
Impression 'M'
1996(平成8)
デザイン 102.8×72.6
平成8年度 管理換 9782



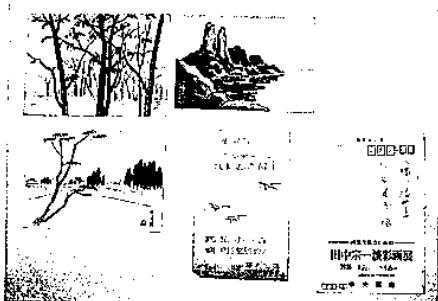
3 F-20-3-1

一ノ瀬雅子 ICHINOSE,Masako
1945～
想・弥生・96
Imagination-April-96
1996(平成8)
油彩・キャンバス 162.0×162.0
右下「Masako」
平成8年度 管理換 9783



6 F-50

西田俊子 NISHIDA,Toshiko
1932～
夢の残像
Remaining images of dreams
1996(平成8)
写真 44.9×43.6/53.0×35.7
平成8年度 管理換 9779



1 F-50

田中宗一 TANAKA,Soichi

1888~1977

葉書 5点

Picture post cards

水彩・紙(定形葉書)

平成8年度 寄贈 9754

2. 寄託資料

平成8年度は当該資料はなし。

3. 資料貸出状況

資料名	貸出先・目的	貸出期間
池田玄陽 一字書「寛」 1点	池田玄陽「古稀記念池田玄陽展」	H8.4.22~4.30
岡田三郎助「矢調べ」「大儀風景」「少年」ほか 5点	高岡市美術館ほか「フランス絵画と浮世絵」展	H8.9.18~H9.2.5
久米桂一郎 「残暦下絵」ほか 4点	日本経済新聞社ほか「明治洋画の新風」展	H8.9.25~H9.3.19
佐伯祐三 「八百屋」 1点	広島県立美術館「20世紀美術の誕生」展	H8.9.26~11.14
三根霞郷 「姉妹」ほか 43点	唐津市近代図書館「女～その造形」展	H8.11.6~12.3

4. 購入図書

図書名	発行所
日本肖像大辞典	日本図書センター
中国美術全集	京都書院
日本近代絵画論集(絵画と写真 他)	朝日新聞社
広重六十余州名所図(普及版)	岩波書店
明治期万国博覧会美術品出品目録	中央公論美術出版
絵画の明治	毎日新聞社
岡田三郎助	座右賓

博物館・美術館職員名簿(平成9年4月1日現在)

課名	職名	氏名	課名	職名	氏名
館長	山田 陸三			学芸課長	中牟田 賢治
副館長	木下 巧			資料係長 (学芸員)	蒲原 宏行
総務課	総務課長	山口 和良	芸術課	主査 (学芸員)	山崎 和文
	庶務管理係長	毛利 明彦		主事	中原 正登
	主査	古賀 タミ子		主事	野中 耕介
	主査	園田 正伸		非常勤嘱託	今川 泰靖
	主事	野中 淳司		企画普及係長 (学芸員)	松本 誠一
	技術員	高柳 雅之		主査 (学芸員)	宇治 章
	事務員	小石 武彦		主事 (学芸員)	本多 美穂
				主事 (学芸員)	竹下 正博
計 19 名					

人事異動(平成9年4月1日付)

転入			転出		
館長	山田 陸三	九州陶磁文化館 館長より	館長	深川 弘一	水産局 局長へ
副館長	木下 巧	文化財課 參事より	副館長	森醇 一朗	名護屋城博物館 副館長へ
総務課長	山口 和良	競馬事務局 総務課長より	総務課長	大國 進	県立図書館 普及課長へ
主事	野中 淳司	佐賀土木事務所より	専門員	一丸 正美	退職(3月31日付)
技術員	高柳 雅之	神埼土木事務所より	主事	石橋 邦広	神埼中学校へ
			技術員	近藤 誠徃	退職(3月31日付)

佐賀県立博物館 年報 第27号
佐賀県立美術館

発行年月日 平成9年7月1日
編集・発行 〒840 佐賀市城内1-15-23

Tel. 0952-24-3947

佐賀県立博物館
佐賀県立美術館

印刷商 古川総合印刷
〒840 佐賀市末広二丁目13-39

Tel. 0952-23-6627